

総政企第 195 号
平成 28 年 7 月 26 日

統計委員会委員長
西村 清彦 殿

総務大臣
山本 早苗



諮問第 93 号
作物統計調査の変更について（諮問）

標記について、平成 28 年 6 月 30 日付け 28 統計第 536 号により農林水産大臣から別添「基幹統計調査の変更について（申請）」のとおり申請があったところ、その承認の適否を判断するに当たり、統計法（平成 19 年法律第 53 号）第 11 条第 2 項において準用する同法第 9 条第 4 項の規定に基づき、統計委員会の意見を求める。

【資料1の別添】

28統計第536号

平成28年6月30日

総務大臣 殿

農林水産大臣 森山 裕



基幹統計調査の変更について（申請）

下記調査の変更について、統計法（平成19年法律第53号）第11条第1項の規定に基づく承認を受けたいので、別紙申請事項記載書に関係書類を添えて、申請します。

記

作物統計調査

主管部課	大臣官房統計部生産流通消費統計課
事務担当者	課長補佐（企画担当） 電話 03（3501）4502 宮本 隆明 e-mail takaaki_miyamoto230@maff.go.jp



申請事項記載書

- 1 調査の名称 作物統計調査
2 変更の内容

変更案	変更前	変更理由
<p>1～3 (略)</p> <p>4 報告を求めめる者 (1) 数^(注2) ア 作付面積調査のうち、<u>水稻以外の作物に関する調査</u> (7) 関係団体 (陸稲、麦類、大豆、<u>そば、かんしよ、なたね、飼料作物、茶、果樹、野菜及び花きに関する調査</u>) : 約5,400 (延べ) (母集団 約5,400 (延べ)) 調査対象名簿は、<u>作付面積調査郵送調査対象一覧表、果樹調査集出荷団体等名簿、野菜調査集出荷団体等名簿、花き調査集出荷団体等名簿</u> (1) (略) (削る。)</p> <p>イ 収穫量調査のうち、<u>水稻以外の作物に関する調査</u> (7) 関係団体 (陸稲、麦類、大豆、<u>そば、かんしよ、なたね、飼料作物、果樹、野菜及び花きに関する調査</u>): 約5,200 (延べ) (母集団 約5,200 (延べ)) 調査対象名簿は、<u>作付面積調査郵送調査対象一覧表、果樹調査集出荷団体等名簿、野菜調査集出荷団体等名簿、花き調査集出荷団体等名簿</u> (1)・(7) (略) (削る。)</p> <p>(ロ) 農林業経営体 (茶及び甘味資源作物に関する調査を除く。): 約69,000 (母集団 約370,000) 調査対象名簿は、<u>2015年農林業センサスの結果から作成した標本経営体母集団名簿 (作物別)</u> (2) 選定の方法 (■全数 ■無作為抽出 □有意抽出) ア・イ (略) (削る。)</p>	<p>1～3 (略)</p> <p>4 報告を求めめる者 (1) 数^(注2) ア 作付面積調査のうち、<u>水稻以外の作物に関する調査</u> (7) 関係団体 (陸稲、麦類、大豆、<u>かんしよ、飼肥料作物、茶、果樹及び野菜に関する調査</u>): 約4,300 (延べ) (母集団 約4,300 (延べ)) 調査対象名簿は、<u>作付面積調査郵送調査対象一覧表、果樹調査集出荷団体等名簿、野菜調査集出荷団体等名簿</u> (1) (略) (ロ) 集出荷団体等 (花きに関する調査): 約2,600 (母集団 約16,000) 調査対象名簿は、<u>花き調査対象名簿 (集出荷団体等用、個人出荷農家等用)</u> イ 収穫量調査のうち、<u>水稻以外の作物に関する調査</u> (7) 関係団体 (陸稲、麦類、大豆、<u>かんしよ、飼料作物、果樹及び野菜に関する調査</u>): 約4,100 (延べ) (母集団 約4,100 (延べ)) 調査対象名簿は、<u>作付面積調査郵送調査対象一覧表、果樹調査集出荷団体等名簿、野菜調査集出荷団体等名簿</u> (1)・(7) (略) (ロ) 集出荷団体等 (花きに関する調査): 約2,600 (母集団 約16,000) 調査対象名簿は、<u>花き調査対象名簿 (集出荷団体等用、個人出荷農家等用)</u> (7) 農林業経営体 (茶、甘味資源作物及び花きに関する調査を除く。): 約64,000 (母集団 約660,000) 調査対象名簿は、<u>2015年農林業センサスの結果から作成した標本経営体母集団名簿 (作物別)</u> (2) 選定の方法 (■全数 ■無作為抽出 ■有意抽出) ア・イ (略) ウ 花きに係る集出荷団体等については、有意抽出 (花きを</p>	<p>花き調査の標本設計の変更による変更並びにそば及びなたねを作物統計の調査対象に追加</p> <p>標本設計の変更による母集団数及び標本数の変更並びに花き調査の標本設計の変更による変更</p>

<p>a (略)</p> <p>b 水稻以外の作物 地方農政局等の長が選定した関係団体等又は農林業経営体に対して調査票を配布して行う郵送自計調査(別記様式第4号から第12号まで及び第14号から第23号までによる。)</p> <p>関係団体等にあつては、報告者の協力が得られる場合は、前記の回収方法のほか、オンライン(政府統計共同利用システム)により回収する自計調査の方法も可能とする。</p> <p>ウ 被害調査 (7) 被害応急調査 地方農政局等の職員による実測調査(別記様式第24号による。)</p> <p>(4) 共済減収調査 地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査(別記様式第13及び第24号から第29号までによる。)</p> <p>7 報告を求めめる期間 (1) 調査の周期 1年(品目によっては、3年又は6年ごとに全国調査を行う い、その中間年には主産県で調査を行う(別添1を参照。))</p> <p>8～12 (略)</p>	<p>a (略)</p> <p>b 水稻以外の作物 地方農政局等の長が選定した関係団体等又は農林業経営体に対して調査票を配布して行う郵送自計調査(別記様式第7～19号による。)</p> <p>関係団体等にあつては、報告者の協力が得られる場合は、前記の回収方法のほか、オンライン(政府統計共同利用システム)により回収する自計調査の方法も可能とする。</p> <p>ウ 被害調査 (7) 被害応急調査 地方農政局等の職員による実測調査(別記様式第20号による。)</p> <p>(4) 共済減収調査 地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査(別記様式第6、21～25の各号による。)</p> <p>7 報告を求めめる期間 (1) 調査の周期 1年(品目によっては、3年又は5年ごとに全国調査を行う い、その中間年には主産県で調査を行う(別添1を参照。))</p> <p>8～12 (略)</p>
--	---

調査	調査項目	作物	調査期日	区域
5	収穫量調査	水稲、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、大豆、そば、玄米、粟、かんしょ	収穫期	全国の区域
		牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー		主産地の区域（全国作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		てんさい		北海道の区域
		さとうきび		鹿児島県及び沖縄県の区域
		茶		主産地の区域（全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		みかん、りんご、ぶどう、日本なし、西洋なし、もも、おうとう、びわ、かき、くり、うめ、すもも、キウイフルーツ		主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		ハイソアツプル		沖縄県の区域
		キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、たまねぎ、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ほうれんそう、ピーマン、スハラガス、いちご、えだまめ、かぶ、かぼちゃ、カリフラワー、グリーンピース、ごぼう、こまつな、さやいんげん、さやえんどう、しゅうごん、しょうが、すいか、スイートコーン、セリ、そらまめ、ちんげんさい、にら、にんにく、ふき、アロココリー、みずな、みつば、メロン、やまのいも、れんこん		主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		花き（花き群の生産額に占める割合が1%以上の品目）		主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
6	共済減収調査	水稲、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、春小麦、大豆、玄米、かんしょ、小豆、いんげん、みかん、指定かんきつ、りんご、ぶどう、なし、もも、かき	収穫期	主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		りんご、ぶどう、なし、もも		農作物、畑作物又は果樹共済事業を実施する都道府県のうち、当該作物ごとに統計部長が定める都道府県の区域
		果樹等が発生した作物		農作物が発生したとき、
7	被害状況調査	果樹等が発生した作物		作物に重大な被害が発生したと認められる地域

調査	調査項目	作物	調査期日	区域
5	収穫量調査	水稲、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、大豆	収穫期	全国の区域
		かんしょ		主産地の区域（全国作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー		主産地の区域（全国作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		てんさい		北海道の区域
		さとうきび		鹿児島県及び沖縄県の区域
		茶		主産地の区域（全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		みかん、りんご、ぶどう、日本なし、西洋なし、もも、おうとう、びわ、かき、くり、うめ、すもも、キウイフルーツ		主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		ハイソアツプル		沖縄県の区域
		キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、たまねぎ、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ほうれんそう、ピーマン、スハラガス、いちご、えだまめ、かぶ、かぼちゃ、カリフラワー、グリーンピース、ごぼう、こまつな、さやいんげん、さやえんどう、しゅうごん、しょうが、すいか、スイートコーン、セリ、そらまめ、ちんげんさい、にら、にんにく、ふき、アロココリー、みずな、みつば、メロン、やまのいも、れんこん		主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		花き（花き群の生産額に占める割合が1%以上の品目）		主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
6	共済減収調査	水稲、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、春小麦、大豆、玄米、かんしょ、小豆、いんげん、みかん、指定かんきつ、りんご、ぶどう、なし、もも、かき	収穫期	主産地の区域（調査対象品目ごとに全国生産面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。
		りんご、ぶどう、なし、もも		農作物、畑作物又は果樹共済事業を実施する都道府県のうち、当該作物ごとに統計部長が定める都道府県の区域
		農作物が発生したとき、		農作物が発生したとき、

別添2 作況調査に係る作物の選定基準

農林水産大臣の定める基準は、次の各号のいずれかに該当する種類の作物であることとする。

- 1 食料・農業・農村基本法（平成11年法律第106号）第15条第1項の規定により定められた食料・農業・農村基本計画において生産努力目標が定められた作物の種類（野菜について生産努力目標が定められている場合は野菜のうち野菜生産出荷安定法施行令（昭和41年政令第224号）第1条に規定する種類及び野菜生産出荷安定法施行規則（昭和41年政令第36号）第8条に規定する種類）に限り、果樹については生産努力目標が定められている場合にあっては果樹のうち果樹農業振興特別措置法施行令（昭和36年政令第145号）第2条に規定する種類に限る。）であること。

2 (略)

別添3 標本の抽出方法

- 1 標本単位区の抽出方法
標本単位区の抽出方法は、次のとおり。

- (1) 単位区の編成
地方農政局等の長は、空中写真（衛星画像等）に基づき全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては400m四方）の格子状の区画のうち、地方農政局等の管轄区域内の区画を、耕地が存在する区画（以下「単位区」という。）と耕地が存在しない区画に区分し、単位区を編成する。

(2)～(5) (略)

2 (略)

- 3 農林業経営体の抽出方法
収穫量調査のうち、陸稲、麦類、大豆、かんしよ、飼料作物、そば、なたね、果樹、野菜及び花き調査に係る農林業経営体の抽出方法は、次のとおり。

- (1) 母集団名簿の作成
統計部長は、2015年農林業センサスにおける農林業経営体調査結果から、調査対象作物を作付けし、及び関係団体等以外に出荷した農林業経営体を抽出し、母集団名簿を作成する。
- (2) 標本数の算出
統計部長は、(1)で作成した母集団名簿を用い、作物別に

別添2 作況調査に係る作物の選定基準

農林水産大臣の定める基準は、次の各号のいずれかに該当する種類の作物であることとする。

- 1 食料・農業・農村基本法（平成11年法律第106号）第15条第1項の規定により定められた食料・農業・農村基本計画において生産努力目標が定められた作物の種類（そば及びなたねを除き、野菜について生産努力目標が定められている場合にあっては野菜のうち野菜生産出荷安定法施行令（昭和41年政令第224号）第1条に規定する種類及び野菜生産出荷安定法施行規則（昭和41年農林省令第36号）第8条に規定する種類）に限り、果樹については生産努力目標が定められている場合にあっては果樹のうち果樹農業振興特別措置法施行令（昭和36年政令第145号）第2条に規定する種類に限る。）であること。

2 (略)

別添3 標本の抽出方法

- 1 標本単位区の抽出方法
標本単位区の抽出方法は、次のとおり。

- (1) 単位区の編成
地方農政局等の長は、登記簿（不動産登記法（平成16年法律第123号）第2条第9号に基づく登記簿をいう。）又は登記簿が利用できない場合は、これに準ずる資料に基づき、地方農政局等の管轄区域内の土地を、一定の面積となるような区域（以下「単位区」という。）に区分し、単位区を編成する。

(2)～(5) (略)

2 (略)

- 3 農林業経営体の抽出方法
収穫量調査のうち、陸稲、麦類、大豆、かんしよ、飼料作物、果樹及び野菜調査に係る経営体の抽出方法は、次のとおり。

- (1) 母集団名簿の作成
統計部長は、2015年農林業センサスにおける農林業経営体調査結果から、調査対象作物を作付けした経営体を抽出し、母集団名簿を作成する。
- (2) 標本数の算出
統計部長は、(1)で作成した母集団名簿を用い、作物別に

そば及びなたねを調査の範囲に追加したことによる変更

実態に合わせ文章の正確性を期す観点から変更

標本設計の変更による。

10 a 当たり収量についての調査結果が一定の目標精度を保持するよう、必要な標本数を算出する。

(3) 標本の配分

統計部長は、都道府県別に、作物別の母集団の分布状況に応じた作付規模別又は作付形態別階層区分を設け、階層別の面積ウエイトにより標本の配分を行い、地方農政局長に通知する。

(4) 標本の抽出

地方農政局長は、(3)により通知された標本を、階層別に系統抽出法又は調査対象作物の作付面積に基づく確率比例抽出により農林業経営体を抽出する。

なお、標本数の2分の1を継続標本とする。

4 (略)

生産量に占める関係団体の把握割合、一定の抽出率、見込まれる出現率及び回収率により標本数を算出する。

(3) 標本の配分

統計部長は、都道府県別に、作物別の母集団の分布状況に応じた作付規模別階層区分を設け、階層別の面積ウエイトにより標本の配分を行い、地方農政局長に通知する。

(4) 標本の抽出

地方農政局長は、(3)により通知された標本を、階層別に系統抽出法により農林業経営体を抽出する。

なお、標本数の2分の1を継続標本とする。

4 (略)

調査作物及び調査項目の変更による。

22	水稲作柄概算調査(もみ数確定期) 作況指数(作柄表示地帯別)	都道府県の作柄表示地帯
23	水稲予想収穫量調査 作付面積、10a当たり予想収量、予想収穫量	全国、農業地域、都道府県
24	水稲予想収穫量調査 刈取期	都道府県
25	水稲予想収穫量調査 作況指数(作柄表示地帯別)	都道府県の作柄表示地帯
26	水稲収量調査 作付面積、収穫量	全国、農業地域、都道府県
27	水稲収量調査(水稲) 作付面積、10a当たり収量、収穫量	全国、農業地域、都道府県
28	水稲収量調査(雑穀) 作付面積、10a当たり収量、収穫量	全国、農業地域、都道府県
29	水稲収量調査(水稲) 収量構成要素	全国、農業地域、都道府県
30	水稲収量調査(水稲) 被害面積及び被害量	全国、農業地域、都道府県
31	水稲収量調査(水稲) 作況指数(作柄表示地帯別)	都道府県の作柄表示地帯
32	水稲収量調査(水稲) 玄米のふもい目幅別重量分布	全国、農業地域、都道府県
33	水稲収量調査(水稲) 玄米のふもい目幅別10a当たり収量	全国、農業地域、都道府県
34	麦類、大豆、かんしょ、そば、かんしよ、左なな、飼料作物収穫量調査 作付面積、10a当たり収量、収穫量	全国、農業地域、都道府県 注:1.麦類については、小麦、二条大麦、六条大麦、はたか麦別に調査する。2.大豆、かんしよ、そば、かんしよ及び飼料作物については、内訳として、内訳別重量分布に調査する。3.飼料作物については、牧草、青刈りともふもい及びシロシロ別に調査する。
35	てんさい収穫量調査 作付面積、10a当たり収量、収穫量	北海道
36	さとうきび収穫量調査 栽培面積、収穫面積、10a当たり収量、収穫量	全国、鹿児島県、沖縄
37	茶収穫量調査 栽培面積、生産収穫量、芽茶生産量、製茶生産量	全国、農業地域、都道府県 注:1.生産限調査年は、生産限計、主産限
38	果樹収穫量調査 結果樹面積、10a当たり収量、収穫量、出荷量	全国、農業地域、都道府県 注:1.生産限調査年は、生産限計、主産限
39	果樹収穫量調査 用差別出荷量	沖縄県、沖縄本島、八重山
40	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限
41	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限

23	水稲作柄概算調査(もみ数確定期) 作況指数(作柄表示地帯別)	都道府県の作柄表示地帯
24	水稲予想収穫量調査 作付面積、10a当たり予想収量、予想収穫量	全国、農業地域、都道府県
25	水稲予想収穫量調査 刈取期	都道府県
26	水稲予想収穫量調査 作況指数(作柄表示地帯別)	都道府県の作柄表示地帯
27	水稲収量調査 作付面積、収穫量	全国、農業地域、都道府県
28	水稲収量調査(水稲) 作付面積、10a当たり収量、収穫量	全国、農業地域、都道府県
29	水稲収量調査(雑穀) 作付面積、10a当たり収量、収穫量	全国、農業地域、都道府県
30	水稲収量調査(水稲) 収量構成要素	全国、農業地域、都道府県
31	水稲収量調査(水稲) 被害面積及び被害量	全国、農業地域、都道府県
32	水稲収量調査(水稲) 作況指数(作柄表示地帯別)	都道府県の作柄表示地帯
33	水稲収量調査(水稲) 玄米のふもい目幅別重量分布	全国、農業地域、都道府県
34	水稲収量調査(水稲) 玄米のふもい目幅別10a当たり収量	全国、農業地域、都道府県
35	麦類、大豆、かんしょ、飼料作物収穫量調査 作付面積、10a当たり収量、収穫量	全国、農業地域、都道府県 注:1.麦類については、小麦、二条大麦、六条大麦、はたか麦別に調査する。2.大豆、かんしよ、そば、かんしよ及び飼料作物については、内訳として、内訳別重量分布に調査する。3.飼料作物については、牧草、青刈りともふもい及びシロシロ別に調査する。
36	てんさい収穫量調査 作付面積、10a当たり収量、収穫量	北海道
37	さとうきび収穫量調査 栽培面積、収穫面積、10a当たり収量、収穫量	全国、鹿児島県、沖縄
38	茶収穫量調査 栽培面積、生産収穫量、芽茶生産量、製茶生産量	全国、農業地域、都道府県 注:1.生産限調査年は、生産限計、主産限
39	果樹収穫量調査 結果樹面積、10a当たり収量、収穫量、出荷量	全国、農業地域、都道府県 注:1.生産限調査年は、生産限計、主産限
40	果樹収穫量調査 用差別出荷量	沖縄県、沖縄本島、八重山
41	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限
42	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限
43	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限
44	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限
45	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限
46	果樹収穫量調査 用差別出荷量	主産限計、主産限

調査結果の公表予定時期

調査	作物	公表予定時期
耕地面積調査	全工の耕地	10月下旬
	水稲	(概算) 9月下旬 (予定用)
	雑穀	10月下旬
	麦類	(都府県) 9月上旬 (北海道)
	大豆	10月下旬
	そば	2月中旬
	なたね	12月下旬
	茶、果樹	10月中旬
	かんしょ	2月上旬
	飼料作物	3月上旬
作柄概況調査	甘味資源作物	1月下旬
	さとうきび	6月中旬
	麦類	4月下旬
	野菜	(都府県) 12月上旬 (北海道)
	花き	8月下旬
	大豆	5月上旬
	水稲	(7月15日現在) 7月下旬
	水稲	(8月15日現在) 8月下旬
	水稲	(もみ数確定期)
	水稲	10月下旬
予想収穫量調査	水稲	12月上旬
	雑穀	12月上旬
	麦類	(都府県) 9月下旬 (北海道)
	大豆	2月下旬
	かんしょ	2月上旬
	飼料作物	3月上旬
	甘味資源作物	1月下旬
	そば	6月中旬
	なたね	2月中旬
	茶	12月下旬
収穫量調査	水稲	8月中旬
	雑穀	(一番米) 2月中旬 (年間計)
	麦類	5月下旬
	大豆	8月上旬
	かんしょ	8月下旬
	飼料作物	11月下旬
	甘味資源作物	11月下旬
	そば	1月下旬
	なたね	2月中旬
	茶	12月下旬
被害応急調査	水稲	8月中旬
	雑穀	(一番米) 2月中旬 (年間計)
	麦類	5月下旬
	大豆	8月上旬
	かんしょ	8月下旬
	飼料作物	11月下旬
	甘味資源作物	11月下旬
	そば	1月下旬
	なたね	2月中旬
	茶	12月下旬
被害応急調査	水稲、麦類、大豆、小豆、いんげん、春縮えばれいしょ、秋縮えばれいしょ、みかん、指定かんきつ、りんご、ぶどう、なし、もも、かき	調査実施後3月以内で 被害調査が完了する日

調査結果の公表予定時期

調査	作物	公表予定時期
耕地面積調査	全工の耕地	10月下旬
	水稲	(概算) 9月下旬 (予定用)
	雑穀	10月下旬
	麦類	(都府県) 9月下旬 (北海道)
	大豆	10月下旬
	そば	2月中旬
	なたね	12月下旬
	茶、果樹	10月中旬
	かんしょ	2月上旬
	飼料作物	3月上旬
作柄概況調査	甘味資源作物	1月下旬
	さとうきび	6月中旬
	麦類	(7月15日現在) 7月下旬
	野菜	(8月15日現在) 8月下旬
	花き	(もみ数確定期)
	大豆	5月上旬
	水稲	(7月15日現在) 7月下旬
	水稲	(8月15日現在) 8月下旬
	水稲	(もみ数確定期)
	水稲	10月下旬
予想収穫量調査	水稲	12月上旬
	雑穀	12月上旬
	麦類	(都府県) 9月下旬 (北海道)
	大豆	2月下旬
	かんしょ	2月上旬
	飼料作物	3月上旬
	甘味資源作物	1月下旬
	そば	6月中旬
	なたね	2月中旬
	茶	12月下旬
収穫量調査	水稲	8月中旬
	雑穀	(一番米) 2月中旬 (年間計)
	麦類	5月下旬
	大豆	8月上旬
	かんしょ	8月下旬
	飼料作物	11月下旬
	甘味資源作物	11月下旬
	そば	1月下旬
	なたね	2月中旬
	茶	12月下旬
被害応急調査	水稲、麦類、大豆、小豆、いんげん、春縮えばれいしょ、秋縮えばれいしょ、みかん、指定かんきつ、りんご、ぶどう、なし、もも、かき	調査実施後3月以内で 被害調査が完了する日

調査の範囲、公表予定時期の変更に
よる。

調査計画（変更後）

1 調査の名称

作物統計調査^(注1)

(注1) 本調査は、面積調査、作況調査及び被害調査の3種類とする。

- ① 面積調査は、耕地面積調査及び作付面積調査に区分する。
- ② 作況調査は、作柄概況調査、予想収穫量調査及び収穫量調査に区分する。
- ③ 被害調査は、被害応急調査及び共済減収調査に区分する。

2 調査の目的

本調査は、統計法（平成19年法律第53号。以下「法」という。）に基づき、作物統計（法第2条第4項第3号に規定する基幹統計）を作成することにより耕地及び作物の生産に関する実態を明らかにし、農業行政の基礎資料を整備することを目的とする。

3 調査対象の範囲

(1) 地域的範囲

ア 面積調査

(7) 耕地面積調査

全国（別添1の「1 耕地面積調査」を参照）

(4) 作付面積調査

農林水産大臣が定める種類の作物ごとに農林水産大臣が定める地域（別添1の「2 作付面積調査」を参照）

イ 作況調査

(7) 作柄概況調査

水稻について農林水産大臣が定める地域（別添1の「3 作柄概況調査」を参照）

(4) 予想収穫量調査

水稻について全国（別添1の「4 予想収穫量調査」を参照）

(7) 収穫量調査

農林水産大臣が定める基準（以下「基準」という。別添2を参照）に合致する種類の作物ごとに農林水産大臣が定める地域（別添1の「5 収穫量調査」を参照）

ウ 被害調査

(7) 被害応急調査

作物について重大な被害が発生したと認められる地域

(1) 共済減収調査

農業災害補償法（昭和22年法律第185号）第84条第1項第1号、第4号及び第6号に掲げる作物のうち農林水産大臣が定めるものの種類ごとに農林水産大臣が定める地域（別添1の「6 共済減収調査」を参照）

(2) 属性的範囲

ア 農業協同組合、荒茶工場、製糖会社、製糖工場、集出荷団体、集出荷業者、その他の関係団体（以下「関係団体等」という。）

イ 耕地の所有者又は耕作者（農林業経営体を含む。）

4 報告を求める者

(1) 数^(注2)

ア 作付面積調査のうち、水稻以外の作物に関する調査

(7) 関係団体（陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、なたね、飼料作物、茶、果樹、野菜及び花きに関する調査）：約5,400（延べ）（母集団 約5,400（延べ））

調査対象名簿は、作付面積調査郵送調査対象一覧表、果樹調査集出荷団体等名簿、野菜調査集出荷団体等名簿、花き調査集出荷団体等名簿

(1) 製糖会社等（甘味資源作物に関する調査）：約100（母集団 約100）

調査対象名簿は、てんさい調査対象一覧表、さとうきび調査対象一覧表

イ 収穫量調査のうち、水稻以外の作物に関する調査

(7) 関係団体（陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、なたね、飼料作物、果樹、野菜及び花きに関する調査）：約5,200（延べ）（母集団 約5,200（延べ））

調査対象名簿は、作付面積調査郵送調査対象一覧表、果樹調査集出荷団体等名簿、野菜調査集出荷団体等名簿、花き調査集出荷団体等名簿

(1) 荒茶工場（茶に関する調査）：約1,300（母集団 約5,400）

調査対象名簿は、荒茶工場母集団一覧表

(7) 製糖会社等（甘味資源作物に関する調査）：約100（母集団 約100）

調査対象名簿は、てんさい調査対象一覧表、さとうきび調査対象一覧表

(1) 農林業経営体（茶及び甘味資源作物に関する調査を除く。）：約69,000（母集団 約370,000）

調査対象名簿は、2015年世界農林業センサスの結果から作成した標本経営体母集団名簿（作物別）

(注2) 上記ア及びイ以外の調査については、関係団体等又は農林業経営体に報告を求める方法ではなく、実測により行う（詳細は、後記6(2)を参照）。

(2) 選定の方法（■全数 ■無作為抽出 □有意抽出）

- ア 関係団体及び甘味資源作物に係る製糖会社等については、全数調査により行う。
- イ 荒茶工場については、全数階層と標本階層に区分し、全数階層は全数調査により、標本階層は無作為抽出の方法による。
- ウ 農林業経営体については、無作為抽出により行う。標本となる農林業経営体の抽出方法については、別添3の「3 農林業経営体の抽出方法」^(注3)を参照。

(注3) 別添3では、このほか「1 標本単位区の抽出方法」及び「2 作況標本筆の抽出方法」において、実測調査を行う際の対象地域となる標本単位区（全国の区域を区分して抽出した区域：約40,000単位区）及び作況標本筆（水稻の栽培の用に供される土地のうちから農林水産大臣が定めるところにより抽出した区域：約11,000筆）の抽出方法について、別添3の「4 共済減収調査の標本抽出」では、共済減収調査の際の標本の抽出方法について記載している。

(3) 報告義務者

- ア 関係団体等又は農林業経営体を代表する者は、後記5に掲げる事項について、配布された調査票に記入して地方農政局等^(注4)の長に、その定める期日までに提出しなければならない。
- イ 関係団体等又は農林業経営体を代表する者が前記アに定める提出をすることができないときは、地方農政局等の職員が指定する関係団体等の役職員又は農林業経営体の世帯員が、これに代わって前記アに定める提出をしなければならない。

(注4) 「地方農政局等」とは、地方農政局、北海道農政事務所及び内閣府沖縄総合事務局の農林水産センターをいう。

5 報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間

(1) 報告を求める事項（詳細は、調査票（別記様式第1号から29号まで）を参照）

ア 面積調査

- (ア) 耕地面積調査については、耕地の田畑別面積、耕地の田畑別の拡張及びかい廃面積
- (イ) 作付面積調査については、作物の種類別作付面積

イ 作況調査

- (ア) 作柄概況調査については、水稻の時期別の作柄概況
- (イ) 予想収穫量調査については、水稻の予想収穫量
- (ウ) 収穫量調査については、作物の種類別収穫量（水稻にあってはその災害種類別の被害量、果樹及び野菜にあっては出荷量を含む。花きにあっては出荷量に限る。）

ウ 被害調査

- (ア) 被害応急調査については、災害等を受けた作物^(注5)の災害種類別作付面積及び被害量

(注5) 作物について重大な災害等が発生したと認められる地域内にある作物の栽培の用に供される土地のうちから地方農政局等の長が選定した土地（被害応急調査筆）において栽培される作物

- (イ) 共済減収調査については、作物^(注6)の種類別共済基準減収量及び当該基準減収量に係る作付面積

(注6) 農業災害補償法第84条第1項第1号、第4号及び第6号に掲げる作物の栽培の用に供される土地のうちから当該作物の種類ごとに抽出した土地（減収標本筆又は果樹共済基準筆）において栽培される当該作物

(2) 基準となる期日又は期間

調査ごと及び作物ごとに農林水産大臣が定める調査期日（別添1を参照）現在によって行う。

6 報告を求めるために用いる方法

(1) 調査組織

ア 地方農政局の管轄区域

農林水産省－地方農政局－報告者^(注7)

イ 北海道

農林水産省－北海道農政事務所－報告者

ウ 沖縄県

農林水産省－内閣府沖縄総合事務局－農林水産センター－報告者

(注7) ただし、4の(1)のア及びイ以外の調査については、関係団体等又は農林業経営体に報告を求める方法ではなく、実測により行う（詳細は、後記(2)を参照）。

(2) 調査方法（■調査員調査 ■郵送調査 ■オンライン調査 ■その他（職員調査））

ア 面積調査

(ア) 耕地面積調査

地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査（別記様式第1号による。）

(イ) 作付面積調査

a 水稻

地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査（別記様式第1号による。）

b 水稻以外の作物

地方農政局等の長が選定した関係団体等又は農林業経営体に対して調査票を配布して行う郵送自計調査（別記様式第2号から第12号までによる。）。

関係団体等にあつては、報告者の協力が得られる場合は、前記の回収方法のほか、オンライン（政府統計共同利用システム）により回収する自計調査の方法も可能とする。

イ 作況調査

(7) 作柄概況調査

水稻について、地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査（別記様式第13号による。）及び水稻について重大な災害等が発生したと認められる地域内にある当該作物の栽培の用に供される土地のうちから、地方農政局等の長が選定した土地に対する地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査（別記様式第24号による。収穫量調査においても同じ。）

(1) 予想収穫量調査

水稻について、地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査（別記様式第13号による。）

(2) 収穫量調査

a 水稻

地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査（別記様式第6号及び第20号による。）

b 水稻以外の作物

地方農政局等の長が選定した関係団体等又は農林業経営体に対して調査票を配布して行う郵送自計調査（別記様式第4号から第12号まで及び第14号から第23号までによる。）。

関係団体等にあつては、報告者の協力が得られる場合は、前記の回収方法のほか、オンライン（政府統計共同利用システム）により回収する自計調査の方法も可能とする。

ウ 被害調査

(7) 被害応急調査

地方農政局等の職員による実測調査（別記様式第24号による。）

(1) 共済減収調査

地方農政局等の職員又は統計調査員による実測調査（別記様式第13及び第24号から第29号までによる。）

7 報告を求める期間

(1) 調査の周期

1年（品目によっては、3年又は6年ごとに全国調査を行い、その中間年には主産県で調査を行う（別添1を参照）。）

(2) 調査の実施期間又は調査票の提出期限

ア 面積調査

(7) 耕地面積調査

7月上旬～7月下旬

(1) 作付面積調査

a 水稻

7月上旬～7月下旬

b 水稻以外の作物

調査票の提出予定時期については、農林水産省大臣官房統計部長（以下「統計部長」という。）が定める時期とする。

イ 作況調査

(7) 作柄概況調査

（7月15日現在調査）7月上旬～7月中旬

（8月15日現在調査）8月上旬～8月中旬

（もみ数確定期調査）統計部長が定める調査期日に対応して実施

(1) 予想収穫量調査

10月上旬～10月中旬

(1) 収穫量調査

a 水稻

水稻の収穫期

b 水稻以外の作物

調査票の提出予定時期については、統計部長が定める時期とする。

ウ 被害調査

(7) 被害応急調査

作物について重大な被害が発生したと認められる場合、速やかに行う。

(1) 共済減収調査

原則として収穫期に行う。ただし、りんご、ぶどう、なし及びももについては、暴風雨が発生した場合、速やかに行う。

8 集計事項

前記5(1)に掲げる事項について、前記6により得られた結果を地方農政局等の職員又は統計調査員による巡回・見積りによって補完の上、都道府県別に集計する。

詳細については、別添4を参照。

9 調査結果の公表の方法及び期日

(1) 公表の方法

調査結果は、インターネット（農林水産省ホームページ及びe-Stat）に掲載するほか、報告書により公表する。

(2) 公表の期日

農林水産大臣は、全国結果の概要を集計後速やかに、その詳細については逐次、印刷物により公表する。

各調査結果（概要）の公表予定時期は、別添5のとおり。

10 使用する統計基準

本調査は、専ら農産物に関する調査であり、日本標準産業分類を適用する余地が小さいことから使用していない。

11 調査票情報の保存期間及び保存責任者

(1) 保存期間

ア 調査票の原票については5年

イ 調査票の内容を収録した電磁的記録については永年

(2) 保存責任者

ア 調査票の原票については地方農政局等の長

イ 調査票の内容を収録した電磁的記録については統計部長

12 立入検査等の対象とすることができる事項

本調査の事務に従事する職員は、正確な報告を確保する特段の必要があるときは、前記5(1)に掲げる事項について、資料の提出を求め、又は必要な場所の立ち入り、帳簿、書類その他の物件を検査し、若しくは関係者に質問することができる。

作物統計調査の調査期日及び調査範囲

調 査	作 物	調査期日	区 域
1 耕地面積調査	全ての耕地	7月15日	全国の区域
2 作付面積調査	水稻	7月15日	全国の区域
	みかん、その他かんきつ類、りんご、ぶどう、日本なし、西洋なし、もも、おうとう、びわ、かき、くり、うめ、すもも、キウイフルーツ、パイナップル	7月15日	主産県の区域（調査対象品目ごとに全国栽培面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県。みかん、りんごにあっては、これに果実需給安定対策事業を実施する都道府県を加えた都道府県）。ただし、6年ごとに全国の区域
	茶	7月15日	主産県の区域（全国栽培面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県、畑作物共済事業又は強い農業づくり交付金による茶に係る事業を実施する都道府県）。ただし、6年ごとに全国の区域
	大豆	9月1日	全国の区域
	小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、そば、なたね	収穫期	全国の区域
	陸稲、かんしょ	収穫期	主産県の区域（全国作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。ただし、3年ごとに全国の区域
	牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー、その他飼料作物 ただし、その他の飼料作物は全国の区域を調査する年に調査	収穫期	主産県の区域（全国作付（栽培）面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県又は農業競争力強化基盤整備事業による飼料作物に係る事業を実施する都道府県）。
	キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、たまねぎ、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ばれいしょ、ピーマン、ほうれんそう、レタス、アスパラガス、いちご、えだまめ、かぶ、かぼちゃ、カリフラワー、グリーンピース、ごぼう、こまつな、さやいんげん、さやえんどう、しゅんぎく、しょうが、すいか、スイートコーン、セルリー、そらまめ、ちんげんさい、にら、にんにく、ふき、ブロッコリー、みずな、みつば、メロン、やまのいも、れんこん	収穫期	主産県の区域（調査対象品目ごとに全国作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業又は畑作物共済事業を実施する都道府県。指定野菜にあっては、これに野菜生産出荷安定法に基づき指定する野菜指定産地を含む都道府県を加えた都道府県）。ただし、3年ごとに全国の区域
	てんさい	収穫期	北海道の区域
	さとうきび	収穫期	鹿児島県及び沖縄県の区域
	花き （花き計の生産額に占める割合が1%以上の品目）	収穫期	主産県の区域（調査対象品目ごとに全国作付（収穫）面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。ただし、3年ごとに全国の区域

調 査	作 物	調査期日	区 域
3 作柄概況調査	水稻	7月15日	徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の区域
		8月15日及び統計部長が別に定めるもみ数確定期	全国の区域
4 予想収穫量調査	水稻	10月15日	全国の区域
5 収穫量調査	水稻、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、大豆、そば、なたね	収穫期	全国の区域
	陸稲、かんしょ		主産県の区域（全国作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。ただし、6年ごとに全国の区域
	牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー		主産県の区域（全国作付(栽培)面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県又は農業競争力強化基盤整備事業による飼料作物に係る事業を実施する都道府県）。ただし、6年ごとに全国の区域
	てんさい		北海道の区域
	さとうきび		鹿児島県及び沖縄県の区域
	茶		主産県の区域（全国栽培面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県、畑作物共済事業又は強い農業づくり交付金による茶に係る事業を実施する都道府県）。ただし、6年ごとに全国の区域
	みかん、りんご、ぶどう、日本なし、西洋なし、もも、おうとう、びわ、かき、くり、うめ、すもも、キウイフルーツ		主産県の区域（調査対象品目ごとに全国栽培面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県又は果樹共済事業を実施する都道府県。みかん、りんごにあっては、これに果実需給安定対策事業を実施する都道府県を加えた都道府県）。ただし、6年ごとに全国の区域
パイナップル	沖縄県の区域		

調 査	作 物	調査期日	区 域
	キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、たまねぎ、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ばれいしょ、ピーマン、ほうれんそう、レタス、アスパラガス、いちご、えだまめ、かぶ、かぼちゃ、カリフラワー、グリーンピース、ごぼう、こまつな、さやいんげん、さやえんどう、しゅんぎく、しょうが、すいか、スイートコーン、セルリー、そらまめ、ちんげんさい、にら、にんにく、ふき、ブロッコリー、みずな、みつば、メロン、やまのいも、れんこん		主産県の区域（調査対象品目ごとに全国作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業又は畑作物共済事業を実施する都道府県。指定野菜にあつては、これに野菜生産出荷安定法に基づき指定する野菜指定産地を含む都道府県を加えた都道府県）。 ただし、6年ごとに全国の区域
	花き （花き計の生産額に占める割合が1%以上の品目）		主産県の区域（調査対象品目ごとに全国作付（収穫）面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県）。 ただし、6年ごとに全国の区域
6 共済減収調査	水稻、小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦、春植えばれいしょ、秋植えばれいしょ、大豆、小豆、いんげん、みかん、指定かんきつ、りんご、ぶどう、なし、もも、かき	収穫期	農作物、畑作物又は果樹共済事業を実施する都道府県のうち、当該作物ごとに統計部長が定める都道府県の区域
	りんご、ぶどう、なし、もも	暴風雨が発生したとき。	

別添2

作況調査に係る作物の選定基準

農林水産大臣の定める基準は、次の各号のいずれかに該当する種類の作物であることとする。

- 1 食料・農業・農村基本法（平成11年法律第106号）第15条第1項の規定により定められた食料・農業・農村基本計画において生産努力目標が定められた作物の種類（野菜について生産努力目標が定められている場合にあつては野菜のうち野菜生産出荷安定法施行令（昭和41年政令第224号）第1条に規定する種類及び野菜生産出荷安定法施行規則（昭和41年農林省令第36号）第8条に規定する種類に限り、果樹について生産努力目標が定められている場合にあつては果樹のうち果樹農業振興特別措置法施行令（昭和36年政令第145号）第2条に規定する種類に限る。）であること。
- 2 調査の結果が得られた直近の2年間連続して耕種部門全体の生産額に占める生産額の割合が1パーセント以上である作物（1に規定する作物を除く。）の種類（花きが該当する場合にあつては、花き全体の生産額に占める生産額の割合が1パーセント以上である種類に限る。）

別添 3

標本の抽出方法

1 標本単位区の抽出方法

標本単位区の抽出方法は、次のとおり。

(1) 単位区の編成

地方農政局等の長は、空中写真（衛星画像等）に基づき全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては400m四方）の格子状の区画のうち、地方農政局等の管轄区域内の区画を、耕地が存在する区画（以下「単位区」という。）と耕地が存在しない区画に区分し、単位区を編成する。

(2) 単位区の階層分け

地方農政局等の長は、(1)の単位区を、その耕地の地目により分類し、同一の分類に属するものをもって地目階層を編成し、次いで、ほ場整備の状況等により分類し、同一の分類に属するものをもって性格階層を編成し、性格階層別単位区リストを作成する。

(3) 標本数の算出

統計部長は、都道府県別に耕地の田畑別面積又は水稻作付面積についての調査結果が一定の目標精度を保持するよう、必要な標本数を算出し、地方農政局長（北海道にあっては北海道農政事務所長、沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局長。以下別添3において同じ。）に通知する。

内閣府沖縄総合事務局長にあっては、通知された標本数を農林水産センター別の耕地の種類別面積又は水稻作付面積についての調査結果が十分な精度を保持するよう、必要な標本数を農林水産センター別に算出し、農林水産センターの長に通知する。

(4) 標本の配分

地方農政局等の長は、(3)により通知された標本数を、都道府県別（沖縄県にあっては、農林水産センターの管轄区域別）の地目階層別に、総単位区数に耕地の田畑別面積又は水稻作付面積の母標準偏差を乗じた積に比例して配分し、次いで、地目階層別の標本数を、性格階層別に当該性格階層の総単位区数に比例して配分する。

(5) 標本の抽出

地方農政局等の長は、(4)により配分した性格階層別の標本を、(2)により作成した性

格階層別単位区リストから系統抽出法により抽出する。

2 作況標本筆の抽出方法

作況標本筆の抽出方法は、次のとおり。

(1) 単位区の階層分け

地方農政局等の長は、標本単位区のうち水稻の栽培の用に供される単位区を、水稻の生産力等により分類し、同一の分類に属するものをもって階層を編成する。

(2) 標本数の算出

統計部長は、都道府県別に水稻の10アール当たり収量についての調査結果が一定の目標精度を保持するよう、必要な標本数を算出し、地方農政局長に通知する。

(3) 標本の配分

内閣府沖縄総合事務局長は、通知された標本数を、階層別に水稻の作付面積に10アール当たり収量の母標準偏差を乗じた積に比例して配分し、農林水産センターの長に通知する。

(4) 標本の抽出

地方農政局等の長は、(2)又は(3)により通知された標本を当該階層から水稻の作付面積に比例して抽出し、次いで、当該標本内にある水稻の作付けされた筆から系統抽出法により作況標本筆を抽出する。

3 農林業経営体の抽出方法

収穫量調査のうち、陸稲、麦類、大豆、かんしょ、飼料作物、そば、なたね、果樹、野菜及び花き調査に係る農林業経営体の抽出方法は、次のとおり。

(1) 母集団名簿の作成

統計部長は、2015年農林業センサスにおける農林業経営体調査結果から、調査対象作物を作付けし、及び関係団体等以外に出荷した農林業経営体を抽出し、母集団名簿を作成する。

(2) 標本数の算出

統計部長は、(1)で作成した母集団名簿を用い、作物別に10a当たり収量についての調査結果が一定の目標精度を保持するよう、必要な標本数を算出する。

(3) 標本の配分

統計部長は、都道府県別に、作物別の母集団の分布状況に応じた作付規模別又は作付形態別階層区分を設け、階層別の面積ウエイトにより標本の配分を行い、地方農政局長に通知する。

(4) 標本の抽出

地方農政局長は、(3)により通知された標本を、階層別に系統抽出法又は調査対象作物の作付面積に基づく確率比例抽出により農林業経営体を抽出する。

なお、標本数の2分の1を継続標本とする。

4 共済減収調査の標本抽出

作物別の抽出方法は、次のとおり。

(1) 水稻

地方農政局等の長は、統計部長が定める区域（以下「減収調査区域」という。）について、2により抽出した作況標本筆とその隣接する筆を抽出する。

(2) 麦類

ア 統計部長は、減収調査区域について、当該作物の種類別共済基準減収量の調査結果が当該作物の種類別に一定の目標精度を保持するよう、必要な標本数を算出し、地方農政局長に通知する。

イ 内閣府沖縄総合事務局長は、農林水産センターの管轄区域別の減収調査区域の当該作物の種類別作付面積に比例して、農林水産センター別に標本数を配分し、農林水産センターの長に通知する。

ウ 地方農政局等の長は、ア又はイにより通知された標本数を当該作物の種類別作付面積に比例して抽出し、次いで、抽出された当該標本のうち当該作物の栽培の用に供される土地の中から系統抽出法により抽出した筆とその隣接する筆を抽出する。

(3) 畑作物及び果樹

- ア 統計部長は、都道府県別に当該作物の種類別の10アール当たり収量についての調査結果が一定の目標精度を保持するよう、必要な標本数を算出し、地方農政局長に通知する。
- イ 地方農政局長は、農業共済組合等から得られた当該作物別の資料に基づき、標本農家抽出表を作成し、アにより通知された標本数の農家（以下「標本農家」という。）を当該作物の種類別共済引受面積に比例して抽出し、次いで、抽出された標本農家の当該作物が作付けされた筆を抽出する。

作物統計調査 集計表表題一覧

番号	表 題	種類	集計地域
1	耕地面積調査 本地・けい畔別耕地面積	(1)田畑計、(2)田、(3)畑	全国、農業地域、都道府県
2	耕地面積調査 畑耕地の種類別面積	(1)普通畑、(2)樹園地、(3)牧草地	全国、農業地域、都道府県
3	耕地面積調査 耕地の拡張・かい廃面積	(1)田畑計、(2)田、(3)畑 注：かい廃の内訳として荒廃農地を表章する。	全国、農業地域、都道府県
4	作付面積調査 水陸稲(子実)作付面積	(1)水陸稲計、(2)水稲、(3)陸稲	全国、農業地域、都道府県 注：陸稲については、主産県調査年は全国値、主産県
5	作付面積調査 麦類(子実)作付面積	(1)4麦計、(2)小麦、(3)二条大麦、(4)六条大麦、(5)はだか麦 注：田畑別に表章する。	全国、農業地域、都道府県
6	作付面積調査 大豆(乾燥子実)、そば、かんしょ、なたね作付面積	(1)かんしょ、(2)大豆、(3)そば、(4)なたね 注：かんしょ、大豆及びそばは、田畑別に表章する。	全国、農業地域、都道府県 注：かんしょについては、主産県調査年は全国値、主産県
7	作付面積調査 果樹栽培面積	(1)みかん、(2)その他かんきつ類、(3)りんご、(4)日本なし、(5)西洋なし、(6)かき、(7)びわ、(8)もも、(9)すもも、(10)おうとう、(11)うめ、(12)ぶどう、(13)くり、(14)パインアップル、(15)キウイフルーツ	全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、全国値、主産県
8	てんさい作付面積調査		北海道
9	さとうきび作付面積調査		全国、鹿児島、沖縄
10	作付面積調査 茶栽培面積		全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、全国値、主産県
11	作付面積調査 飼料作物作付(栽培)面積	(1)飼料作物計、(2)牧草、(3)青刈りとうもろこし、(4)ソルゴー 注：田畑別に表章する。	全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、全国値、主産県
12	水稲作柄概況調査(7月15日現在) 作柄の良否、田植期、出穂期		徳島、高知、宮崎、鹿児島及び沖縄
13	水稲作柄概況調査(8月15日現在) 田植期及び出穂期	注：早期及び普通期栽培等の区分がある県は、早期栽培、普通期栽培ごとに区分して表章する。	都道府県
14	水稲作柄概況調査(8月15日現在) 作柄の良否(水稲早場地帯)		早場の都道府県
15	水稲作柄概況調査(8月15日現在) 生育の良否(水稲遅場地帯)		遅場の都道府県
16	水稲作柄概況調査(8月15日現在) 作況指数(水稲早期栽培等)		徳島、高知、宮崎、鹿児島及び沖縄

17	水稲作柄概況調査(8月15日現在) 作柄の良否(作柄表示地帯別)		早場の都道府県の作柄表示地帯
18	水稲作柄概況調査(8月15日現在) 作況指数(作柄表示地帯別)		徳島、高知、宮崎及び鹿児島 島の作柄表示地帯
19	水稲作柄概況調査(もみ数確定期) 作付面積、10a当たり予想収量	注:早期及び普通期栽培等の区分がある県 は、早期栽培、普通期栽培ごとに区分し て表章する。	全国、農業地域、都道府県
20	水稲作柄概況調査(もみ数確定期) 作柄概況	注:早期及び普通期栽培等の区分がある県 は、早期栽培、普通期栽培ごとに区分し て表章する。	都道府県
21	水稲作柄概況調査(もみ数確定期) 出穂期	注:早期及び普通期栽培等の区分がある県 は、早期栽培、普通期栽培ごとに区分し て表章する。	都道府県
22	水稲作柄概況調査(もみ数確定期) 作況指数(作柄表示地帯別)		都道府県の作柄表示地帯
23	水稲予想収穫量調査 作付面積、10a当たり予想収量、予想収穫量		全国、農業地域、都道府県
24	水稲予想収穫量調査 刈取期	注:早期及び普通期栽培等の区分がある県 は、早期栽培、普通期栽培ごとに区分し て表章する。	都道府県
25	水稲予想収穫量調査 作況指数(作柄表示地帯別)		都道府県の作柄表示地帯
26	水陸稲収穫量調査(水陸稲計) 作付面積、収穫量		全国、農業地域、都道府県
27	水陸稲収穫量調査(水稲) 作付面積、10a当たり収量、収穫量		全国、農業地域、都道府県
28	水陸稲収穫量調査(陸稲) 作付面積、10a当たり収量、収穫量		全国、農業地域、都道府県 注:陸稲については、主産県 調査年は全国値、主産県
29	水陸稲収穫量調査(水稲) 収量構成要素		全国、農業地域、都道府県
30	水陸稲収穫量調査(水稲) 被害面積及び被害量		全国、農業地域、都道府県
31	水陸稲収穫量調査(水稲) 作況指数(作柄表示地帯別)		都道府県の作柄表示地帯
32	水陸稲収穫量調査(水稲) 玄米のふるい目幅別重量分布		全国、農業地域、都道府県
33	水陸稲収穫量調査(水稲) 玄米のふるい目幅別10a当たり収量		全国、農業地域、都道府県
34	麦類、大豆、そば、かんしょ、なたね、飼料作物 収穫量調査 作付面積、10a当たり収量、収穫量	注1:麦類については、小麦、二条大麦、六 条大麦、はだか麦別に表章。また、北海道 の小麦については、春まき及び秋まき別に 表章する。 2:宮崎県及び鹿児島県のかんしょについ ては、内訳としてでん粉原料用仕向け量を 表章する。 3:飼料作物については、牧草、青刈りとう もろこし及びソルゴー別に表章する。	全国、農業地域、都道府県 注:かんしょ及び飼料作物に ついては、主産県調査年は 全国値、主産県
35	てんさい収穫量調査 作付面積、10a当たり収量、収穫量		北海道
36	さとうきび収穫量調査 栽培面積、収穫面積、10a当たり収量、収穫量	注:作型(夏植、春植及び株出)別に表 章する。	全国、鹿児島、沖縄

37	茶収穫量調査 摘採面積、生葉収穫量、荒茶生産量、10a当 たり生葉収量、摘採面積率、製茶歩留まり	注：年間計及び一番茶の別に表章す る。	全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、主産県 計、主産県
38	果樹収穫量調査 結果樹面積、10a当たり収量、収穫量、出荷量	(1)みかん、(2)りんご、(3)日本なし、(4)西洋 なし、(5)かき、(6)びわ、(7)もも、(8)すもも、 (9)おうとう、(10)うめ、(11)ぶどう、(12)くり、 (13)キウイフルーツ 注：内訳等がある品目については、併せて 表章する。	全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、全国 値、主産県
39	果樹収穫量調査 栽培面積、収穫面積、10a当たり収量、収穫 量、用途別出荷量	パインアップル	沖縄県、沖縄本島、八重山
40	果樹収穫量調査 用途別出荷量	(1)みかん、(2)りんご	主産県計、主産県
41	果樹収穫量調査 集出荷団体取扱数量	(1)みかん、(2)りんご、(3)日本なし、(4)西洋 なし、(5)かき、(6)びわ、(7)もも、(8)すもも、 (9)おうとう、(10)うめ、(11)ぶどう、(12)くり、 (13)キウイフルーツ 注：内訳等がある品目については、併せて 表章する。	主産県計、主産県
42	野菜作付面積調査・収穫量調査 作付面積、10a当たり収量、収穫量、出荷量	(1)だいこん、(2)かぶ、(3)にんじん、(4)ごぼ う、(5)れんこん、(6)ばれいしょ、(7)さといも、 (8)やまのいも、(9)はくさい、(10)こまつな、 (11)キャベツ、(12)ちんげんさい、(13)ほうれ んそう、(14)ふき、(15)みつば、(16)しゅんぎ く、(17)みずな、(18)セルリー、(19)アスパラ ガス、(20)カリフラワー、(21)ブロッコリー、 (22)レタス、(23)ねぎ、(24)にら、(25)たまね ぎ、(26)にんにく、(27)きゅうり、(28)かぼ ちゃ、(29)なす、(30)トマト、(31)ピーマ ン、(32)スイートコーン、(33)さやいんげん、(34) さやえんどう、(35)グリーンピース、(36)そら まめ、(37)えだまめ、(38)しょうが、(39)いち ご、(40)メロン、(41)すいか 注：内訳等がある品目については、併せて 表章する。	全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、全国 値、主産県
43	野菜作付面積調査・収穫量調査 用途別出荷量	(1)だいこん、(2)にんじん、(3)ばれいしょ、(4) さといも、(5)はくさい、(6)キャベツ、(7)ほうれ んそう、(8)レタス、(9)ねぎ、(10)たまねぎ、 (11)きゅうり、(12)なす、(13)トマト、(14)ピー マン	全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、全国 値、主産県
44	野菜作付面積調査・収穫量調査 作付面積、収穫量、出荷量	(1)だいこん、(2)にんじん、(3)ばれいしょ、(4) さといも、(5)はくさい、(6)キャベツ、(7)ほうれ んそう、(8)レタス、(9)ねぎ、(10)たまねぎ、 (11)きゅうり、(12)なす、(13)トマト、(14)ピー マン	野菜指定産地計、野菜指定 産地を包括する市町村及び ばれいしょのうち北海道の全 市町村
45	花き収穫量調査 作付(収穫)面積、出荷量	(1)切り花類、(2)球根類、(3)鉢もの類、 (4)花壇用苗もの類 注：品目については花き計の生産額に 占めるシェアが1%以上の品目を表章 する。	全国、農業地域、都道府県 注：主産県調査年は、全国 値、主産県
46	被害応急調査 被害面積、被害量、被害見込金額	注1：総数、水陸稲、麦類、かんしょ、雑穀・ 豆類、野菜、果樹、工芸農作物、飼肥料作 物、桑及びその他の作物について表章す る。 注2：主要な被害においては、被害面積及 び被害量について、上記の内訳である品目 別についても表章する。	全国、農業地域、都道府県
47	農作物減収調査(一筆引受方式) 減収面積、減収量及び共済減収量	(1)水稲、(2)麦類 注：共済金支払開始損害割合(3、 4、5割)ごとに作成	都道府県
48	農作物減収調査(水稲)(半相殺引受方式) 減収面積、減収量	注：共済金支払開始損害割合(2、 3、4割)ごとに作成	都道府県

49	畑作物減収調査(ばれいしょ) 増減収面積、10a当たり収量		都道府県
50	畑作物減収調査(大豆)(半相殺引受方式) 減収面積、10a当たり半相殺収量		都道府県
51	畑作物減収調査(小豆、いんげん)(半相殺引受方式) 減収面積、10a当たり半相殺収量	(1)小豆、(2)いんげん	都道府県
52	畑作物減収調査(大豆)(一筆引受方式) 減収面積、10a当たり収量		都道府県
53	果樹・収穫共済基準筆調査 増減収面積、10a当たり増減収量、10a当たり増減収率	注:品目については、調査対象作物を引受方式(半相殺方式、樹園地単位方式)ごとに表章する。	都道府県
54	果樹・暴風雨共済基準筆調査 減収面積、10a当たり減収量、10a当たり減収率	注:品目については、調査対象作物を引受方式(半相殺方式、樹園地単位方式)ごとに表章する。	都道府県

別添5

調査結果の公表予定時期

調 査	作 物		公表予定時期	
耕地面積調査	全ての耕地		10月下旬	
作付面積調査	水稲	(総 数)	9月下旬	
		(子実用)	10月下旬	
	陸稲		12月上旬	
	麦類	(都府県)	9月下旬	
		(北海道)	10月下旬	
	大豆		10月下旬	
	そば		2月中旬	
	なたね		12月下旬	
	茶、果樹		10月中旬	
	かんしょ		2月上旬	
飼料作物		3月上旬		
作柄概況調査	水稲	(7月15日現在)	7月下旬	
		(8月15日現在)	8月下旬	
		(もみ数確定期)	9月下旬	
予想収穫量調査	水稲		10月下旬	
収穫量調査	水稲		12月上旬	
	陸稲		12月上旬	
	麦類	(都府県)	9月下旬	
		(北海道)	11月下旬	
	大豆		2月下旬	
	かんしょ		2月上旬	
	飼料作物		3月上旬	
	甘味資源作物	てんさい	1月下旬	
		さとうきび	6月中旬	
	そば		2月中旬	
	なたね		12月下旬	
	茶	(一番茶)	8月中旬	
		(年間計)	2月中旬	
	果樹	りんご、みかん		5月下旬
		キウイフルーツ		8月上旬
		パイナップル		8月下旬
		びわ、おうとう、うめ		11月下旬
		もも、すもも		1月下旬
		日本なし、ぶどう		2月中旬
		西洋なし、かき、くり		4月中旬
		春野菜、夏秋野菜、たまねぎ		4月下旬
	野菜	春植えばれいしょ	(都府県)	12月上旬
			(北海道)	2月上旬
秋冬野菜、特定野菜等		8月下旬		
花き		5月中旬		
被害応急調査			※原則として 四半期毎及び 天災融資法発 動の際に公表	
共済減収調査	水稲、麦類、大豆、小豆、いんげん、春植えばれいしょ、秋植えばれいしょ、みかん、指定かんきつ、りんご、ぶどう、なし、もも、かき		調査実施後3月以内で 統計部長が定める日	

農林水産省 作物統計 年産

別記様式第3号
 農林水産省 作物統計 年産
 郵便番号 市区町村 寄附番号
 4 1 1 9 1

平成 年産
 作付面積調査票(団休用)

果樹及び茶用

- この調査票は、使わないと、統計以外の目的に使うことは絶対にありませんので、ありのままを記入してください。
- 色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 数字は、1マスにつき一つずつ、枠からはみ出さないように右づめで記入してください。

記入例

つなげる ときまをあげる

★ マスが足りない場合は、一番左のマスに0をともて記入してください。

記入例

記入していただいた調査票は、月 日までに提出してください。
 調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
 詳しくは同封の1オンライン調査システム操作ガイドを御覧ください。

【問い合わせ先】

農林水産省 作物統計 年産

別記様式第3号
 農林水産省 作物統計 年産
 郵便番号 市区町村 寄附番号
 4 1 1 9 1

平成 年産作付面積調査票(団休用B)

この調査票は、農林水産省が統計法(昭和56年法律第95号)に基づき、統計資料調査として実施するものです。
 記入する前に、「調査票の記入の仕方」をご覧ください。
 なお、この調査票は郵送票として、統計以外の目的に使うことは絶対にありませんので、ありのままを記入してください。

農林水産省 作物統計 年産

農林水産省 作物統計 年産

1 果樹の栽培面積 単位：ha

作物名	前年度	本年度	栽培面積	本年産
みかん				
その他かんきつ類				
りんご				
ぶどう				
日本なし				
西洋なし				
もも				
すもも				
おうとう				

※ 栽培面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。
 ※ その他のかんきつ類には、みかん以外のすべてのかんきつ類の各計面積を記入してください。

2 茶の栽培面積 単位：ha

作物名	前年度	本年度	栽培面積	本年産
茶				

※ 栽培面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。

3 栽培面積の増減要因等

果樹(茶)ごとの主な増減要因(新植、開墾等)について記入してください。

果樹(茶)ごとの主な増減要因と増減面積について記入してください。

果樹(茶)ごとの主な増減要因(新植、開墾等)を記入してください。

【問い合わせ先】

名称
 住所
 担当氏名
 電話番号
 FAX番号

別記様式6号

農林水産省 平成 年産 畑作物作付面積調査・収穫量調査調査票(団体用)

郵便番号 市区町村 寄付番号

農林水産省 畑作物作付面積調査

年産 年産 年産

農林水産省 畑作物作付面積調査

畑作物作付面積調査・収穫量調査調査票(団体用)

飼料作物、かんしょ、そば、なたね(子実用)

この調査票は、畑作物以外の目的に使うことは禁じられています。あつちまを記入してください。

○ 目的(飼料用)は、飼料用として登録されたものに限ります。

○ 調査及び収穫量の記入に当たって、不明な点等があれば、下記お問い合わせ先にお問い合わせください。

★ 右ついでに記入し、マスが足りない場合は、記入例のように一番左のマスにまとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をつけてください。

記入例 11 9 8 6 5 3

記入例 / つづける すぎませぬ

記入例 / つづける すぎませぬ

記入していただいた調査票は、月 日までに提出してください。

調査票の記入及び提出は、インターネット上で行ってください。

詳しくは同封のオンライン調査システム操作ガイドを御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】農団体内の作付(栽培)面積及び集荷量について

記入上の注意

○ 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。

○ 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5未満の結果は「0」と記入してください。

○ <作物ごとの注意事項>

品目名	作付(栽培)面積 (田畑計)		集荷量
	田	畑	
前年度	ha	ha	t
本年度	ha	ha	t
前年度	ha	ha	t
本年度	ha	ha	t
前年度	ha	ha	t
本年度	ha	ha	t
前年度	ha	ha	t
本年度	ha	ha	t

集荷量に記入してください。

別記様式5号

農林水産省 平成 年産 郵便送付調査票(団体用D)

郵便番号 市区町村 寄付番号

農林水産省 郵便送付調査票

年産 年産 年産

農林水産省 郵便送付調査票

この調査票は、農林水産省が統計法(平成19年法律第59号)に基づく統計調査として実施するものです。

記入する前に、「調査票の記入の仕方」をご覧ください。

なお、この調査票は郵送扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。

記入していただく調査票は、月 日までに同封の封筒に入れて郵送してください。

農団体内の作付状況について、以下の作物ごとに記入してください。

1 かんしょの作付面積

単位: ha

作物名	作付面積 (田畑計)	
	前年度	本年度
かんしょ	ha	ha

※ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。

※ 畑畑については、畑畑面積を田に作付けしたものは畑畑として、水田面積を畑畑として作付けしたものは畑畑に含めますが、スプリングロー等により計画的なかんがいを行う栽培のものには含まれません。

2 陸稲の作付面積

単位: ha

作物名	作付面積 (田畑計)	
	前年度	本年度
陸稲	ha	ha

3 作付面積の増減要因等(かんしょ、陸稲)

作物ごとの主な増減要因(転換作物等)について記入してください。

作物ごとに主な増減地域と増減面積について記入してください。

農団体内で収穫している、管内の農団体内へは出荷されない作付面積等の状況(作付面積、作付地域等)を記入してください。

引寄せられたり、記入漏れがないようにしてください。

別記様式8号

← ← ← 入力方向

別記様式8号	年 産	経済所長	管内部長	市区町村	団体番号
農林水産省	農林水産省	農林水産省	農林水産省	農林水産省	農林水産省

平成 年度
畑作物収穫量調査調査票(団体用)
さとうきび用

この調査票は、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、あつたまま記入してください。
 青色の背景部分にはパソコンで記入し、印刷された場合は、用紙にそのまま提出してください。
 印刷された調査票の記入に当たって、不明な点等がございましたら、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

★ 本作物で記入し、本作物以外の場合は、一筆左のマスにまとめて記入してください。
 ★ 該当する場合は、記入例のように、点線までつけてください。

記入していただいた調査票は、月 日までに提出してください。
 調査票の記入及び提出は、インターネットで可能です。
 詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】農事集場で集荷しているさとうきびの栽培面積、収穫面積及び集荷量について

記入上の注意
 作付面積は単位を「a」で記入してください。
 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。
 栽培面積は、収穫の年明けに記入してください。栽培した全ての面積を記入してください。
 収穫面積は、本年に収穫した面積を記入してください。

作型	栽培面積	収穫面積	集荷量
夏植え	前年度		
	本年度		
春植え	前年度		
	本年度		
株出し	前年度		
	本年度		

裏面に進んでください。

別記様式12号

← ← ← 入力方向

別記様式12号	年 産	経済所長	管内部長	市区町村	団体番号
農林水産省	農林水産省	農林水産省	農林水産省	農林水産省	農林水産省

平成 年度
さとうきび収穫量調査
郵送調査票

この調査は、農林水産省が統計法（平成19年法律第55号）に基づく基幹統計調査として実施するものです。
 記入する前に、「調査票の記入の仕方」をご覧ください。
 なお、この調査票は郵送扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。

記入していただいた調査票は、月 日までに同封の封筒に入れて返送してください。

【問い合わせ先】

名 称 _____
 住 所 _____
 担当者名 _____
 電話番号 _____
 FAX番号 _____

【2】 作柄及び被害の状況について
 1 前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の原因について記入してください。
 (該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。)

作型	作柄の良否				被害の多少			
	良	悪	少	多	少	多	少	多
夏播	/	/	/	/	/	/	/	/
春播	/	/	/	/	/	/	/	/
株出し	/	/	/	/	/	/	/	/

作型	主な被害の原因(複数回答可)									
	日照不足	高温	低温	多雨	少雨	霜害	台風	病害	虫害	その他
夏播	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
春播	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
株出し	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

2 台風、病害、虫害及びその他については、被害の内容を具体的に記入してください。

3 栽培(収穫)面積の増減理由や、被害による収量への影響を及ぼした要因(作付品種の変化など)があれば、記入してください。

【1】 栽培面積、収穫面積及び集荷量について

農事集荷管内の本年産さとうきびの栽培面積、収穫面積及び集荷量について記入してください。

作型	年産	栽培面積 ha (a)	収穫面積 ha (a)	集荷量
夏播	前年産
	本年産
春播	前年産
	本年産
株出し	前年産
	本年産

【2】 作柄及び被害の状況について

1 本年産の作柄、被害の状況は、前年産に比べてどうでしたか。
 (それぞれ該当する欄に○印を記入してください。)

作型	作柄の良否		被害の多少
	良かった	悪かった	
夏播	(1)	(2)	(3)
春播	(1)	(2)	(3)
株出し	(1)	(2)	(3)

2 被害が多かったとお答えの場合は、その要因について記入してください。
 (該当するものすべての欄に○印を記入してください。
 なお、被害の最も多かった要因は必ず記入してください。)

3 栽培(収穫)面積の増減理由や、被害による収量への影響を及ぼした要因(作付品種の変化など)があれば、記入してください。

作型	被害の要因							
	日照不足	高温	低温	多雨	少雨	霜害	台風	その他
夏播	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
春播	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
株出し	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)

台風、病害及びその他については、被害の内容を具体的に記入してください。

3 栽培(収穫)面積の増減理由や、被害による収量への影響以外の要因(作付品種の変化等)があれば記入してください。

近年の鳥獣害及び虫害の増加を踏まえ追加

【1】 農団体で栽培している春植えばれいしよの作付面積及び出荷量について

記入上の注意
 ○ 主たる収穫・出荷期間は、北半球は9月から10月まで、南半球は4月から8月までですが、この期間以降に出荷を予定している量も併せて記入してください。
 ○ 作付面積の単位は1haとし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください、0.05ha未満の結果は0.0と記入してください。
 ○ 作付面積及び出荷量は、栽培には限られいしよを含まないでください。
 ○ 出荷量のうち加工向けは、月ごとの加工向け月ごとの原料用及び加工食品用です。

作物名	作付面積	出荷量	うち加工向け
春植えばれいしよ	ha		
前年度			
本年度			

【2】 作付面積の増減要因等について

作付面積の主な増減要因について記入してください。

主な増減地域と増減面積について記入してください。

農団体において、農団体に出荷されない管内の作付圃地等の状況（作付面積、作付地域等）を把握していれば記入してください。

【3】 収穫量の増減要因等について

前年度に比べて本年度の作付の負否、被害の多少、主な被害の原因について記入してください。
 (該当のある場合は、点線を描き込んでください。)

作物名	作付の良否		被害の多少		主な被害の原因(複数回答可)							
	良	悪	少	多	高温	低温	日照不足	多雨	台風	病害	虫害	その他
春植えばれいしよ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。

収穫量の増減要因について、調査客の記入負担の軽減を図るため、選択方式による記入の変更

【1】農団地で集荷している作付面積及び集荷量について

- 記入上の注意
 ○ 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
 ○ 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。
 ○ 「うち検査基準以上」欄には、1年、2年に加工用以上とされたものの合計を記入してください。
 ○ 検査基準を超過している場合や、検出日までに検査を受けていない場合は、集荷された農作物の状態から、検査基準以上となる量を算出もって記入してください。

作物名	作付面積		集荷量		うち検査基準以上
	前年度	本年度	前年度	本年度	
	ha		t		
	ha		t		
	ha		t		
	ha		t		
	ha		t		

【2】収穫量の増減要因等について

本年度の作物の良否、被害の多少、主な被害の原因について記入してください。
 (該当のある場合は、点検記録簿などをご参照ください。)

作物名	作物の良否			被害の多少				主な被害の原因(複数回答可)						
	良	悪	不明	多	少	並	多	日照不足	多雨	台風	病害	虫害	鳥獣	その他
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因(品種、栽培方法などの変化)があれば、記入してください。

収穫量の増減要因について、調査客体の記入負担の軽減を図るため、選択方式による記入の変更

年間計と一番茶で調査時期が違うことから、記入する範囲を明確にするため追加

茶種別の把握を廃止するとともに、茶期別の把握を年間計及び一番茶に変更

茶期別の摘採面積の把握を廃止したことから、的確に実面積と延べ面積を把握できるよう変更

【1】 生葉集荷（処理）量及び摘採面積について

1 本年の集荷（処理）状況について教えてください。
(該当するものに○印を記入してください。)

本年、集荷（処理）を行った	→【4】その他に進んでください。
本年、集荷（処理）を行わなかった	

2 1で集荷（処理）を行ったとお答えの場合は、本年産の貴工場における生葉の処理量及びそれぞれ対応する摘採面積を茶期ごとに記入してください。
なお、各茶期の茶期に量枝・せん定をかねて刈り取った茶葉について、荒茶に加工（刈り番茶）される場合は集荷量に含めてください。

生葉集荷 (処理)量	各番茶					計
	春番茶	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	
前年度						
本年度						
摘採面積						
前年度						
本年度						

【2】 茶種別の荒茶生産量について

本年産の茶種別荒茶生産量について、茶期ごとの生産量を記入してください。
(単位は「kg」で記入ください。)

茶種	各番茶					計
	春番茶	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶	
普通せん茶						
玉露						
かぶせ茶						
てん茶						
玉縁茶						
煎茶						
その他						
前年度						
本年度						
前年度						
本年度						
前年度						
本年度						
前年度						
本年度						
前年度						
本年度						
前年度						
本年度						

【3】 貴工場で集荷している茶の生産量と摘採面積について
調査対象（農林水産省職員が予め記入しております。）

1 年間計	/
2 一番茶	/

1 年間計にマークのある方は、「年間計」及び「うち一番茶」両方に記入してください。
2 一番茶にマークのある方は、「うち一番茶」のみ記入してください。
3 一番茶の調査をお願いした方は、再度年間計の調査をお願いします。
その際は両方にマークがつきます。

※「年間計」には、春番茶、秋冬番茶及び一昨年から四週茶までの合計です。

記入上の注意
○ 本年産の貴工場における生葉の処理量及びそれぞれに対する摘採面積を茶期ごとの合計及び「うち一番茶」について記入してください。
○ 量枝・せん定をかねて刈り取った茶葉についても、荒茶に加工（刈り番茶）される場合は、集荷量、荒茶生産量及び摘採面積へ面積に含めてください。
○ 摘採延べ面積は、摘採した面積の合計を記入してください。

項目	年間計		うち一番茶
	前年度	本年度	
生葉集荷 (処理)量			
荒茶生産量			
摘採実面積			
摘採延べ面積			

【4】 作前及び被害の状況について
前年度に比べて本年度の作前の良否、被害の要因について該当する項目の成績をなぞってください。

茶期別	作前の良否		被害の多少					主な被害の要因(複数回答可)					
	良	悪	多	少	並	多	少	並	多	日照不足	霜害	鳥害	その他
年間計	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
一番茶	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。

【3】 被害の状況について

1 茶類別の被害の状況は、前年度に比べてどうでしたか。
(それぞれ該当する欄に○印を記入してください。)

	少なかった	前年度並み	多かった
冬番番茶			
一 番 茶			
二 番 茶			
三 番 茶			
四 番 茶			
秋冬番茶			

2 被害が多かったとお答える場合は、その要因について記入してください。
(該当するものをすべての際に○印を記入してください。
なお、被害の発生が二以上の要因を同時に記入してください。)

	凍害	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	積雪	虫害	その他
冬番番茶										
一 番 茶										
二 番 茶										
三 番 茶										
四 番 茶										
秋冬番茶										

【4】 その他

来年度以降の集荷（処理）予定についてお聞きます。
(該当するものに○印を記入してください。)

来年度以降、集荷（処理）を行う予定がある
来年度以降、集荷（処理）を行う予定はない
今のところ未定である

調査はここで終わりです。同封の封筒にて返送ください。ご協力ありがとうございます。

【2】 作柄及び被害の状況について

- 1 本年産の作柄・被害の状況は、前年産に比べてどうでしたか。
(それぞれ該当する欄に○印を記入してください。)

	良かった	前年並み	悪かった
作柄の良否			

	少なかった	前年並み	多かった
被害の多少			

- 2 被害が多かったとお答えの場合は、その要因について記入してください。

(該当するすべての欄に○印を記入してください。
なお、被害の最も多かった要因に○印を記入してください。)

高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他

【3】 その他

- 来年以降の作付予定についてお聞きます。
(該当するものに○印を記入してください。)

来年以降、作付けする予定がある
来年以降、作付けを行う予定はない
今のところ未定である

調査はここで終わりです。関係の書類に返送ください。ご協力ありがとうございました。

【1】生産の状況について
 本年の飼料作物（牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴー）の栽培状況について教えてください。（該当するものに○印を記入してください。）

本年、作付けを行った	→	【2】以降に進んでください。
本年、作付けを行わなかった	→	【6】その他に進んでください。

【2】牧草について
 1 本年産の栽培面積を記入してください。

栽培面積	ha	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
記入上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 「栽培面積」には、牧草専用地、田や畑のほか農地以外での栽培地など、牧草の栽培に利用した全ての面積を記入してください。 同じ土地で複数回収穫した場合は、収穫した延べ面積ではなく、実際の面積（実面積）を記入してください。 牧草とは次のようなものをいいます。 イカリナライグラス、ハイブリッドライグラス、ペレニアライグラス、トルコフェスタク、ポーフエスク、オーチャードグラス、チモシー、レッドトップ、パヒアグラス、グリスグラス、ローズグラス、リードカカリグラス、スエーデングラス、チオント、その他いれ牧草（プロームグラス類、ホイトグラス類、ブルーグラス類等）（資料牧草） アルファルファ、クローバー類、セサバニブ、その他豆科牧草（ベツナ類、ルーピン類、レスベチア類等） えん麦、さい麦、大麦等の青刈り作物は牧草には含まれませんのでご注意ください。 なお、青刈りとうもろこし、ソルゴーは、本調査票の【3】、【4】でそれぞれ記入をお願いします。 											

複数年に渡って収穫できる永年性作物は「栽培面積」、概ね1年以内に収穫され複数年に渡って収穫できない非永年性作物は「作付面積」として区分しているところであり、正確に記載したため

固定サイロを用いている事例があるため、調査客体が記入しやすいよう追加

2 本年産の収穫量を記入してください。
 収穫量を重量（生重量）で把握している場合は「ア」に、ラッピング個数やサイロごとの生産量（総量）で把握している場合は「イ」に記入してください。

ア 収穫量が重量（生重量）でわかる場合
 刈取り時期ごとの収穫量を記入の上、「計」欄に合計の収穫量を記入してください。（各期ごとにはおられない場合は、「計」のみの記入でも結構です。）

収穫量	計	1 番刈り	2 番刈り	3 番刈り	4 番刈り
kg					

イ ラッピング個数等がわかる場合

＜ラッピング又は梱包を行っている場合＞

ラッピング個数	kg
梱包個数	kg

＜簡易サイロを用いている場合＞

サイロの容積	m ³
--------	----------------

記入上の注意

- サイロのラッピング等を用いている場合は「ア」に、ラッピング個数及び1個当たりの重量を記入してください。
- ラッピング個数及び1個当たりの重量を記入してください。
- ラッピング個数及び1個当たりの重量を記入してください。
- 簡易サイロを利用した場合は、使用したすべてのサイロの容積の合計を記入してください。

【3】牧草について
 本年、作付けを行った方のみ記入してください。
 本年産の栽培面積について記入してください。

記入上の注意

- 「栽培面積」には、牧草専用地、田や畑のほか農地以外での栽培地など、牧草の栽培に利用した全ての面積を記入してください。
- 同じ土地で複数回収穫した場合は、収穫した延べ面積ではなく、実際の面積（実面積）を記入してください。
- 牧草とは次のようなものをいいます。
 イカリナライグラス、ハイブリッドライグラス、ペレニアライグラス、トルコフェスタク、ポーフエスク、オーチャードグラス、チモシー、レッドトップ、パヒアグラス、グリスグラス、ローズグラス、リードカカリグラス、スエーデングラス、チオント、その他いれ牧草（プロームグラス類、ホイトグラス類、ブルーグラス類等）（資料牧草）
- アルファルファ、クローバー類、セサバニブ、その他豆科牧草（ベツナ類、ルーピン類、レスベチア類等）
- えん麦、さい麦、大麦等の青刈り作物は牧草には含まれませんのでご注意ください。
- なお、青刈りとうもろこし、ソルゴーは、本調査票の【4】、【5】でそれぞれ記入をお願いします。

栽培面積	ha	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
作付面積	ha	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

どちらから分る方で本年産の収穫量について記入してください。

1 収穫量が重量（生重量）で分かる場合

収穫量計	kg	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1 番刈り	kg										
2 番刈り	kg										
3 番刈り	kg										
4 番刈り	kg										

2 生産量で分からない場合

＜ラッピング又は梱包を行っている場合＞

ラッピング個数	kg
梱包個数	kg

＜固定サイロを用いている場合＞

サイロの容積	m ³
充足率	%

＜簡易サイロを用いている場合＞

サイロの容積	m ³
--------	----------------

記入上の注意

- ラッピングマシンのラッピング個数及び1個当たりの重量を記入してください。
- また、【4】青刈りとうもろこし及び【5】ソルゴーも同様に記入してください。
- 乾燥後、梱包を行っている場合は、梱包個数及び1個当たりの重量を記入してください。
- 固定サイロとは、培肥サイロ（クローサーサイロ）、バンカーサイロなど四方を構築物で囲まれたものをいいます。なお、充足率は、固定サイロの管理に対する本年の利用割合を記入してください。
- 簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。

【4】青刈りとうもろこしについて
本年産の作付面積について記入してください。

作付面積	ha	(㎡) (区)	1	2	3	4
------	----	---------	---	---	---	---

どちらか分かる方で本年産の収穫量について記入してください。

1 収穫量が重量(生重量)で分かる場合

収穫量	t	kg
-----	---	----

2 生重量で分からない場合

サイロの容積	㎥	%
充足率	%	

＜簡易サイロを用いている場合＞

サイロの容積	㎥
充足率	%

＜ラッピングを行っている場合＞

ラッピング面積	㎥
---------	---

記入上の注意

○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で囲まれたものをいいます。なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。

○ 簡易サイロとは、スタックサイロ、パキュームサイロ、バンクサイロなど固定式以外のものをいいます。また、し字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含まれます。なお、簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。

【5】ソルゴー
本年産の作付面積について記入してください。

作付面積	ha	(㎡) (区)	1	2	3	4
------	----	---------	---	---	---	---

どちらか分かる方で本年産の収穫量について記入してください。

1 収穫量が重量(生重量)で分かる場合

収穫量	t	kg
-----	---	----

2 生重量で分からない場合

サイロの容積	㎥	%
充足率	%	

＜簡易サイロを用いている場合＞

サイロの容積	㎥
充足率	%

＜ラッピングを行っている場合＞

ラッピング面積	㎥
---------	---

記入上の注意

○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で囲まれたものをいいます。なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。

○ 簡易サイロとは、スタックサイロ、パキュームサイロ、バンクサイロなど固定式以外のものをいいます。また、し字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含まれます。なお、簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。

引続き次のページにお読みください。

【3】青刈りとうもろこしについて

1 本年産の栽培面積及び収穫量(生重量)を記入してください。

栽培面積	ha	(㎡) (区)	1	2	3	4
収穫量	kg					

2 上で収穫量(生重量)が不明な場合は、使用したサイロの容積を記入してください。

＜固定サイロを用いている場合＞

サイロの容積	㎥
充足率	%

＜簡易サイロを用いている場合＞

サイロの容積	㎥
--------	---

記入上の注意

○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で囲まれたものをいいます。なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。

○ 簡易サイロとは、スタックサイロ、パキュームサイロ、バンクサイロなど固定式以外のものをいいます。また、し字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含まれます。なお、簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。また、【4】のソルゴーも同様に記入してください。

【4】ソルゴーについて

1 本年産の栽培面積及び収穫量(生重量)を記入してください。

栽培面積	ha	(㎡) (区)	1	2	3	4
収穫量	kg					

2 上で収穫量(生重量)が不明な場合は、使用したサイロの容積を記入してください。

＜固定サイロを用いている場合＞

サイロの容積	㎥
充足率	%

＜簡易サイロを用いている場合＞

サイロの容積	㎥
--------	---

記入上の注意

○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で囲まれたものをいいます。なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。

○ 簡易サイロとは、スタックサイロ、パキュームサイロ、バンクサイロなど固定式以外のものをいいます。また、し字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含まれます。なお、簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。

引続き次のページにお読みください。

青刈りとうもろこしは非永年性作物であり、正確に記載したため

ラッピングを行っている事例があるため、調査客体が記入しやすいよう追加

ソルゴーは非永年性作物であり、正確に記載したため

ラッピングを行っている事例があるため、調査客体が記入しやすいよう追加

【6】 作物及び被害の状況について

前年度に比べて本年度の作物の良否、被害の多少、主な被害の原因について該当する項目の点線をなぞってください。

作物名	作物の良否		被害の多少		主な被害の原因(複数回答可)									
	良	悪	少	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	霜害	虫害	鳥害	その他
牧草	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
青刈りとうもろこし	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
ソルゴー	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。精進力ありがとうございました。

【5】 作物及び被害の状況について

1 本年度の作物・被害の状況は、前年度に比べてどうでしたか。(それぞれ該当する欄に○印を記入してください。)

	作物の良否		被害の多少	
	良かった	悪かった	少なかった	多かった
牧草				
青刈りとうもろこし				
ソルゴー				

2 被害が多かったとお答えの場合は、その要因について記入してください。

(該当するすべての欄に○印を記入してください。なお、被害の最も多かった要因に○印を記入してください。)

	被害の要因								
	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	霜害	虫害	その他
牧草									
青刈りとうもろこし									
ソルゴー									

【6】 その他

来年度以降の被害予定についてお聞きします。(該当するものに○印を記入してください。)

来年度以降、被害する予定がある	
来年度以降、被害を行う予定はない	
今のところ未定である	

調査はここで終了です。調査の封筒にて返送ください。ご協力ありがとうございました。

近年の鳥獣害の増加を踏まえ追加

別記様式19号

記入カ方

別記様式19号	年度	市町村	町	番	地番	田圃番号	田圃名称	農業者	設置区	家畜

農業者氏名
住所
電話番号



平成 年産
畑作物収穫量調査調査票(経営体用)

ななね(子実用)用

この調査票は、経営体以外に、経営体以外の目的に使うことは禁じます。別の表を記入してください。

○ 畑作物の種類又はチャート/ペンシルで記入、間違えた場合は、黒いゴムで消すにしてください。

○ 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がございましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 百つめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスにまとめて記入してください。
★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例

11	9	8	6	5	3
1	2	3	4	5	6

【問い合わせ先】

記入していただいた調査票は、月 日までに提出してください。

【1】本年の生産の状況について
本庄の作付状況について教えてください。該当するもの1つに記入し点線をなぞって選択してください。

本年、作付を行った	/
本年、作付を行わなかった	/

↑

来年度、作付け予定がある	/
来年度、作付け予定はない	/
今のところ未定	/
農業者がわからない、農作物を 作付け(栽培)する予定はない	/

・本庄作付けを行なった方は、【3】(裏面)に進んでください。

・本庄作付けを行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いいたします。

御協力ありがとうございました。

(新設)

調査対象範囲の変更による追加

【3】結果樹面積、出荷量及び自家用等の量について

本年、栽培を行った方のみ記入してください。

- 記入上の注意**
- 「結果樹面積」は、収穫するために果実をならせた結果樹面積をいいます。
 - 「自家用」は、結果樹面積から収穫した果実のうち、自家消費のために残ったものをいいます。
 - 「出荷量」は、「精製」「生」のいずれかで包装された状態での重量をいいます。
 - 「出荷先」は、共同出荷、集積や市場へ出荷したもののや、消費者に直接販売したものと、販売した全ての量をあわせてください。
 - 「自家用」は、果樹の生長の発芽、こまめに消費されたもの、原産地での消費されたものなどを含みます。
 - 「共同出荷」は、共同出荷の発芽、こまめに消費されたもの、原産地での消費されたものなどを含みます。
 - 「市場」は、共同出荷、集積や市場へ出荷したもののや、消費者に直接販売したものと、販売した全ての量をあわせてください。
 - 「消費者」は、共同出荷、集積や市場へ出荷したもののや、消費者に直接販売したものと、販売した全ての量をあわせてください。
 - 「消費者」は、共同出荷、集積や市場へ出荷したもののや、消費者に直接販売したものと、販売した全ての量をあわせてください。

作物名	結果樹面積 (ハヤブサカブトは 収量面積) (ha)	収穫量		出荷先					合計	
		出荷量 (販売した量及び販売 目的で残している量) (kg)	自家用、 無償の贈与の量 (kg)	共同 出荷	市場	集積以外の 果実出荷団体	その他	100%		

【4】出荷先の割合について

作物名	共同 出荷	市場	集積以外の 果実出荷団体	その他	合計

【5】作物及び被害の状況について

前年度に比べて本年産の作物の良否、被害の多少、主な被害の要因について該当する項目の良悪を必ずご確認ください。

作物名	作物の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)			
	良	悪	不明	少	多	不明	日照不足	台風	病害虫	その他

調査はここで終了です。謝辞ありがとうございます。

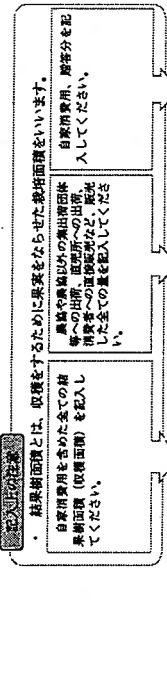
【1】生産の状況について

1 本年の栽培状況について教えてください。
(該当するものに○印を記入してください。)

栽培を行った	
栽培を行わなかった	
栽培を中止した	

→【3】その他に進んでください。

2 1で栽培を行ったとお答えの場合、本年産(主として平成○○年○月○日から平成○○年○月○日まで)に収穫・出荷したものの結果樹面積、収穫量、出荷量及び自家消費等について記入してください。



○○年度	結果樹面積 (ha)	収穫量 (kg)	出荷量 (kg)	自家用及び贈与用 (kg)

注：出荷先について、箱、袋及び「1」等で包装されている場合は、「1kg以上」を単位として記入してください。(例：10kg箱で10箱出荷した場合は、「100kg」と記入)

3 2で記入した出荷先について、該当する出荷先(%)を記入してください。

【2】出荷先の注

「消費者(直接販売)」とは、直売所、産地販売、宅配便、インターネット販売などです。
 「その他」は、加工業者、消費者(直接販売)、市場、集積以外の果実出荷団体及び集積のいずれにも該当しない出荷先の割合を記入してください。
 なお、「 」欄は、その他の出荷先のうち、最も多い出荷先を記入してください。

加工業者	消費者 へ販売	市場	集積以外の 果実出荷 団体	その他	合計

記入負担の軽減のため、収穫量計を
削除
調査客体が分かりやすいよう変更

調査客体が記入誤りしないよう項目
名を変更

近年の鳥獣害被害の増加を踏まえ追
加

【2】 作柄及び被害の状況について

- 1 本年度の作柄、被害の状況は、前年度に比べてどうでしたか。
(それぞれ該当する欄に○印を記入してください。)

作柄の良否	良かった	前年度並み	悪かった
	少なかった	前年度並み	多かった
被害の多少			

- 2 被害が多かったとお答えの場合は、その要因について記入してください。

(該当する全ての欄に○印を記入してください。
なお、被害の発生原因として原因不明を記入してください。)

被害の要因	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他

【3】 その他

来年度以降の栽培予定についてお聞かせします。
(該当するものに○印を記入してください。)

来年度以降、栽培する予定がある (他の果樹の栽培予定がある場合 (栽培予定の果樹名:))
来年度以降、栽培を行う予定はない
今のところ未定である

調査はご自分で済ませてください。調査の結果は、ご報告がなくても構いません。

【2】 作物及び被害状況について

- 1 本年産の作物・被害の状況は、前年産に比べてどうでしたか。
(それぞれの該当する欄に○印を記入してください。)

作物の良否	良かった	前年産並み	悪かった
被害の多少	少なかった	前年産並み	多かった

- 2 被害が多かったとお答えの場合は、その要因について記入してください。

(該当する全ての欄に○印を記入してください。
なお、被害の最も多かった原因に○印を記入してください。)

高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	霜害	虫害	その他

【3】 その他

来年以降の作付予定についてお聞きます。
(該当するものに○印を記入してください。)

来年以降、作付けする予定がある
来年以降、作付けを行う予定はない
今のところ未定である

調査はご家庭で行います。同封の封筒にて返送ください。ご協力ありがとうございます。

別記様式23号

花き出荷量調査票(経営体用)

平成 年 産

記入日 11月9日 6時53分

記入者 /

記入場所 /

記入内容 /

【1】本年の生産の体積について
 全10作付の体積について記入してください。
 1. 10作付のうち、10作付の体積を記入してください。
 2. 10作付のうち、10作付の体積を記入してください。

【2】本年の出荷の体積について
 全10作付の体積について記入してください。
 1. 10作付のうち、10作付の体積を記入してください。
 2. 10作付のうち、10作付の体積を記入してください。

品目名	本年(10月～12月)	前年(10月～12月)	増減	割合	注
切り花					
盆栽					
花壇用苗					
その他					
合計					

【3】作付(収獲)面積及び出荷量について
 本年の作付(収獲)面積及び出荷量について、該当する品目に記入してください。

記入方法

- 本年の10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。

品目名	本年(10月～12月)		前年(10月～12月)		増減	割合	注
	作付(収獲)面積	出荷量	作付(収獲)面積	出荷量			
切り花							
盆栽							
花壇用苗							
その他							
合計							

別記様式19号

平成 年産 花き生産出荷量調査票

記入日 /

記入者 /

記入内容 /

【1】作付(収獲)面積及び出荷量について
 本年の作付(収獲)面積及び出荷量について、該当する品目に記入してください。

記入方法

- 本年の10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。
- 10月～12月の間に発生した面積を記入してください。

品目名	本年(10月～12月)		前年(10月～12月)		増減	割合
	作付(収獲)面積	出荷量	作付(収獲)面積	出荷量		
切り花						
盆栽						
花壇用苗						
その他						
合計						

【2】作付(収獲)面積及び出荷量について
 本年の作付(収獲)面積及び出荷量について、該当する品目に記入してください。

花きの調査設計を変更したことにより、従来団体調査と経営体調査とで同一の調査票であったものを、分離したため

来年以降の作付予定については、記入漏れを防ぐ観点から、レイアウトの変更

秘	統計法に基づく基幹統計
農林水産省	作物統計

平成 年 面積調査 実測調査票



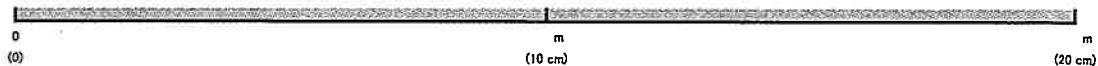
政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

(職員記入欄)						(調査員記入欄)		(職員記入欄)		
調査年	都道府県	管理番号	市町村	単位区番号	階層番号	標本継続年数	母集団 筆面積(a)		調査日	調査結果のデータ入力日
							田	畑		
						緯度		経度		
								調査員名		調査結果のデータ入力者名



(地域メッシュの空中写真等を表示)



画像著作権 :

連絡先 :

(電話番号)



--	--	--	--

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産
作付面積調査調査票(団体用)
大豆(乾燥子実)用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 数字は、1マスに1つずつ、枠からはみ出さないように右づめで記入してください。

記入例				9	8	7	6	5	4	0
				つなげる			すきまをあける			

★ マスが足りない場合は、一番左のマスにまとめて記入してください。

記入例	1123
-----	------

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】貴団体に集荷している大豆の作付面積について

記入上の注意

- 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 枝豆として未成熟で収穫するもの及び飼料用として青刈りするものは除きます。

単位:ha

作物名	作付面積 (田畑計)	田		畑	
大豆	前年産				
	今年産				

裏面に進んでください。

【 2 】 作付面積の増減要因等について

作付面積の主な増減要因（転換作物等）について記入してください。

主な増減地域と増減面積について記入してください。

貴団体において、貴団体に出荷されない管内の作付団地等の状況（作付面積、作付地域等）を把握していれば記入してください。

← ← ← 入力方向

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

--	--	--	--

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 作付面積調査調査票(団体用)

果樹及び茶用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 数字は、1マスに1つずつ、枠からはみ出さないように右づめで記入してください。

記入例				9	8	7	6	5	4	0
-----	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---

つなげる すきまをあける

★ マスが足りない場合は、一番左のマスにまとめて記入してください。

記入例	1123
-----	------

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
 詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】貴団体の管内の果樹の栽培面積について

単位:ha

作物名		栽培面積	作物名		栽培面積
	前年産			前年産	
	本年産			本年産	
	前年産			前年産	
	本年産			本年産	
	前年産			前年産	
	本年産			本年産	
	前年産			前年産	
	本年産			本年産	
	前年産			前年産	
	本年産			本年産	
	前年産			前年産	
	本年産			本年産	
	前年産			前年産	
	本年産			本年産	

【2】貴団体の管内の茶の栽培面積について

単位:ha

作物名		栽培面積
	前年産	
	本年産	

記入上の注意

- 栽培面積は単位を「ha」とし、小数点第一位（10a単位）まで記入してください。
0.05ha未満の結果は「0.0」と記入してください。
- 貴団体の管内において、集荷・取扱いを行う栽培団地等の栽培面積を記入してください。
- その他かんきつ類には、みかん以外の全てのかんきつ類の合計面積を記入してください。

【3】栽培面積の増減要因等について

果樹（茶）ごとの主な増減要因（新植、廃園等）について記入してください。

果樹（茶）ごとの主な増減地域と増減面積について記入してください。

貴団体において、貴団体に出荷されない管内の作付団地等の状況（作付面積、作付地域等）を把握していれば記入してください。

← ← ← 入力方向

--	--	--	--

秘	統計法に基づく基幹統計
農林水産省	作物統計



政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号

平成 年産
畑作物作付面積調査・収穫量調査調査票(団体用)
陸稲用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスをまとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	3
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】貴団体で集荷している作付面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。
- 陸稲品種を田に作付けしたものは除きます。水稻品種を畑に作付けしたものは陸稲に含めますが、計画的にかんがいを行い栽培するものは除きます。

作物名	作付面積	集荷量	うち検査基準以上
			t
陸稲	前年産	ha	t
	今年産		

裏面に進んでください。

【 2 】 作付面積の増減要因等について

主な増減要因（転換作物等）について記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

主な増減地域と増減面積について記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

貴団体において、貴団体に出荷されない管内の作付団地等の状況（作付面積、作付地域等）を把握していれば記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【 3 】 収穫量の増減要因等について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。
 （該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他
陸稲	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

← ← ← 入力方向

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



政府統計
統計法に基づく国の
統計調査です。調査
票情報の秘密の保護
に万全を期します。

平成 年産
畑作物 作付面積調査・収穫量調査調査票(団体用)
麦類(子実用)用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスをまとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、月 日までに提出してください。

調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。

詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】貴団体に集荷している作付面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の結果は「0」と記入してください。
- 主に食用(子実用)とするものについて記入してください。緑肥用や飼料用は含めないでください。
- 「うち検査基準以上」欄には、1等、2等に加え規格外のうち規格外Aとされたものの合計を記入してください。
- 検査を受けない場合や、提出日までに検査を受けていない場合などは、集荷された農作物の状態から検査基準以上となる量を見積もって記入してください。

品目名	作付面積 (田畑計)	田		畑		集荷量		うち検査基準以上	
		ha	ha	ha	ha	t	t	t	t
小麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t	t	t
	今年産								
秋まき (北海道のみ)	前年産	ha	/	/	/	t	t	t	t
	今年産								
春まき (北海道のみ)	前年産	ha	/	/	/	t	t	t	t
	今年産								
二条 大麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t	t	t
	今年産								
六条 大麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t	t	t
	今年産								
はだか 麦	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t	t	t
	今年産								

【 2 】 作付面積の増減要因等について

作物ごとの主な増減要因（転換作物等）について記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

作物ごとに主な増減地域と増減面積について記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

貴団体において、貴団体に出荷されない管内の作付団地等の状況（作付面積、作付地域等）を把握していれば記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【 3 】 収穫量の増減要因等について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。（該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)										
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	
小麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
二条大麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
六条大麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
はだか麦	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。

.....

.....

.....

.....



秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産

畑作物作付面積調査・収穫量調査調査票(団体用)

飼料作物、かんしょ、そば、なたね(子実用)用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマ스에まとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	3
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。

調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。

詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】貴団体内の作付(栽培)面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付(栽培)面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の結果は「0」と記入してください。
- <作物ごとの注意事項>

品目名	作付(栽培)面積 (田畑計)	田		畑		集荷量	うち検査基準以上
		ha	ha	ha	ha		
	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
	前年産	ha	ha	ha	ha	t	t
	本年産						
	前年産	ha	ha	ha	ha		
	本年産						

裏面に進んでください。

【 2 】 作付（栽培）面積の増減要因等について

作物ごとの主な増減要因（転換作物等）について記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

作物ごとに主な増減地域と増減面積について記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

貴団体において、貴団体に出荷されない管内の作付団地等の状況（作付面積、作付地域等）を把握していれば記入してください（飼料作物については【1】に貴団体が把握している面積を記入していただいているため記入不要です。）。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【 3 】 収穫量の増減要因等について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。（該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因（複数回答可）										
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。

.....

.....

.....

.....

.....

← ← ← 入力方向

--	--	--	--

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 畑作物収穫量調査調査票(団体用) てんさい用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

- ★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマ스에まとめて記入してください。
- ★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる		すきまをあける

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】貴事業場で集荷しているてんさいの作付面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付面積は単位を「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。0.5t未満の結果は「0」と記入してください。

作物名		作付面積	集荷量
てんさい	前年産	ha	t
	本年産		

裏面に進んでください。

【2】 作柄及び被害の状況について

1 前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。
 (該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。)

作物名	作柄の良否			被害の多少		
	良	並	悪	少	並	多
てんさい	/	/	/	/	/	/



作物名	主な被害の要因(複数回答可)										
	融雪遅れ	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	鳥獣害	病害	虫害	その他
てんさい	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/



2 病害、虫害及びその他については、被害の内容を具体的に記入して下さい。

[]

3 作付面積の増減理由や被害以外の収量に影響を及ぼした要因(作付品種の変化など)があれば、記入してください。

Blank area with horizontal dotted lines for writing.

← ← ← 入力方向

--	--	--	--

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 畑作物収穫量調査調査票(団体用) さとうきび用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

- ★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスをまとめて記入してください。
- ★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる すきまをあける		

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】 貴事業場で集荷しているさとうきびの栽培面積、収穫面積及び集荷量について

記入上の注意

- 作付面積は単位を「a」で記入してください。
- 集荷量は単位を「t」とし、整数で記入してください。
- 栽培面積は、収穫の有無にかかわらず、栽培した全ての面積を記入してください。
- 収穫面積は、本年に収穫した面積を記入してください。

作型		栽培面積	収穫面積	集荷量
夏植え	前年産	a	a	t
	本年産			
春植え	前年産	a	a	t
	本年産			
株出し	前年産	a	a	t
	本年産			

裏面に進んでください。



秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 野菜収穫量調査調査票(団体用)

春植えばれいしょ用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 数字は、1マスに1つずつ、枠からはみ出さないように右づめで記入してください。

記入例				9	8	7	6	5	4	0
-----	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---

つなげる すきまをあける

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	/	→	/
-----	---	---	---

★ マスが足りない場合は、一番左のマスにまとめて記入してください。

記入例	1128
-----	------

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】貴団体に集荷している春植えばれいしょの作付面積及び出荷量について

記入上の注意

- 主たる収穫・出荷期間は、北海道は9月から10月まで、都府県は4月から8月までですが、この期間以降に出荷を予定している量も含めて記入してください。
- 作付面積の単位は「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の結果は「0.0」と記入してください。
- 作付面積及び出荷量には種ばれいしょを含めないでください。
- 出荷量の「うち加工向け」はでんぷん原料用及び加工食品用です。

作物名		作付面積	出荷量	うち加工向け
春植え ばれいしょ	前年産	ha	t	t
	今年産			

【2】作付面積の増減要因等について

作付面積の主な増減要因について記入してください。

.....

.....

.....

.....

主な増減地域と増減面積について記入してください。

.....

.....

.....

.....

貴団体において、貴団体に出荷されない管内の作付団地等の状況（作付面積、作付地域等）を把握していれば記入してください。

.....

.....

.....

.....

【3】収穫量の増減要因等について

前年産に比べて今年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について記入してください。（該当のある場合は、点線を鉛筆などでなぞってください。）

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他
春植えばれいしょ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

作物ごとに被害以外の増減要因（品種、栽培方法などの変化）があれば、記入してください。

.....

.....

.....

.....



--	--	--	--

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 野菜作付面積調査・収穫量調査調査票(団体用)

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

- ★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスにまとめて記入してください。
- ★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	1	1	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる		すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】 貴団体に集荷している作付面積及び出荷量について

記入上の注意

- 「作付面積」は、は種又は植付けし、発芽又は定着した作物の利用面積を記入してください。単位は「ha」とし、小数点第一位(10a単位)まで記入してください。0.05ha未満の場合は「0.0」と記入してください。
- 「出荷量」には、種子用や飼料用として出荷した量は含めません。
- 「加工向け」は、加工場や加工を目的とする業者へ出荷した量を記入してください。
- 「業務用向け」は、飲食店、学校給食、ホテルや総菜等を含む外食産業や中食産業に出荷した量を記入してください。

品目名 品目コード	主たる収穫・出荷期間	区分	作付面積	出荷量	
				うち加工向け	うち業務用向け
		前年産	ha	t	t
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			

【 1 】 貴団体に集荷している作付面積及び出荷量について(続き)

品目名 品目コード	主たる収穫 ・出荷期間	区分	作付面積	出荷量	
				うち加工向け	うち業務用向け
		前年産	ha	t	t
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			

【 1 】 貴団体に集荷している作付面積及び出荷量について(続き)

品目名 品目コード	主たる収穫 ・出荷期間	区分	作付面積	出荷量	
				うち加工向け	うち業務用向け
		前年産	ha	t	t
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			
		前年産			
		本年産			

次のページに進んでください。



--	--	--	--

秘	統計法に基づく基幹統計
農林水産省	作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 花き作付面積調査・出荷量調査調査票(団体用)

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスをまとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	3
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
 調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
 詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】 貴団体に集荷している作付(収穫)面積及び出荷量について

記入上の注意

- 本年の1月から12月までに出荷したものについて、記入してください。
- 「作付(収穫)面積」は、被害等で出荷できなかった面積も含めてください。
 また、1年間のうち、同じほ場に2回以上作付けした場合や2段以上のベッド(棚)で栽培した場合、その延べ面積としてください。
- 1a(歩、㎡)、1,000本(鉢、球)に満たない場合は四捨五入して整数単位で記入してください。
 (例:0.4a、400本→「0」、0.5a、500本→「1」)

記入する作付(収穫)面積の単位の点線をなぞって選択してください。 a(畝) / 歩(坪) / ㎡

品目名	品目コード	本年(平成 年1月~12月)		前年(1~12月)	
		作付(収穫)面積	出荷量	作付(収穫)面積	出荷量
切り花類計			千本		千本

統計法に基づく基幹統計
作物統計



平成 年産作物概況・(予想)収穫量・共済減収調

水稻 作況標本(基準)筆調査票
減収標本

秘
農 林 水 産 省

記入見本 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 調査者氏名

年産	作物	都道府県	管理番号	作柄表示地帯	作況階層	標本単位区	筆番通し号
西 暦	水 稻						
2 0	:	:	1 1 0	:	:	:	:

市町村	旧市町村	農業集落	調査区	経営体	緯度度分	経度度分	標高 m
:	:	:	:	:	:	:	:

共済引受方式			筆種類		地方設定コード								継続年数
一筆	筆相数	全相数	標本筆	基準筆	A	B	C	D	E	F	G	H	
1	2	3	1	2	:	:	:	:	:	:	:	:	:

筆所在地	市町村	大字	丁目	地番	氏名
					電話()
筆作者住所	市町村	農家の刈取り予定日 月 日			

1 観察・聞き取り事項

品名(品種名)	種	作 期			普通作区分			栽 植 様 式						は 種 期 月 日	田 植 期 月 日	出 穂 期 月 日
		早 刈	普 通	一 期 作	二期作	早 生	中 生	晩 生	機械植え	手 植	播 種	条 間	密 植			
:	:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15

農家の刈取り期 月 日	刈取り時の倒伏程度					農家の刈取り方法				筆の作付面積 a	刈返し筆	肥培管理の良否			選使用目	別用いる幅	にしろい幅	玄米選別形態
	I	II	III	IV	V	コンバイン	手刈り	自脱	コンバイン			刈取り回数	良	普通				
:	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18

(作況基準筆調査のみ)

水管理の実施期日							
圃所かん水		中干し		深水管理()回		高温時のかけ流し()回	
開始期日 月 日	終了期日 月 日	開始期日 月 日	終了期日 月 日	開始期日 月 日	終了期日 月 日	開始期日 月 日	終了期日 月 日
:	:	:	:	:	:	:	:

落 水 期 月 日	施 肥 期 日					10a当たり窒素投入量							
	基 肥	追 肥			基 肥	追 肥		基 肥	追 肥		基 肥	追 肥	
		中間追肥	穂 肥	実 肥		(銘柄)	(銘柄)		(銘柄)	(銘柄)			
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	

窒素投入量につき 追肥につき	10a 当たり有機質肥料投入量				除 草 剤 回 数	病 害 回 数	土 性
	実 肥	たいきゅう肥	緑 肥	生 わら			
(銘柄) kg	(銘柄) kg	(銘柄) kg	(銘柄) kg	(銘柄) kg	回	回	1 2 3
:	:	:	:	:	:	:	:

(記入注意)

- 1 倒伏程度は、全倒伏(I)、一部穂が地につく(II)、半倒伏(III)、直立と半倒伏が半々(IV)、倒伏なし(V)に区分し、該当番号を○で囲む。
- 2 緯度、経度、標高及び土性欄については調査資料に基づき記入すること。
- 3 10a当たり窒素投入量については、回数に分けて施肥する場合、その合計量を記入すること。

4 2 1 1

2 栽植密度

畝幅・株間測定		畝幅 (11けい間の長さ)	株間 (11株間の長さ)	1 m ² 当たり株数(けい長)	刈取り数
	I	cm	cm	株(cm)	株
	II				
	III				
	合計	(1)	(2)		株
	平均	(3) (1)/30	(4) (2)/30		株
(5)	1 m ² 当たり株数	$\frac{10,000}{(3) \times (4)}$	株	1 m ² 当たりけい長	$\frac{10,000}{(3)}$ cm

3 刈取り調査

刈取り日	月	日	露	有	無				
刈取り方法	3 m ² 当たり整数株刈り	①	調製方法	総合選別機	①				
	3 m ² 刈り	②		段ぶるい	②				
刈取り試料	全量	縮分重量							
	未調製生もみ重	g							
	未調製乾燥もみ重	g							
	粗玄米重								
	玄米重		10a 当たり換算率 (5) × 1,000 刈取り株数計						
	くず米重								
	玄米水分	%							
千粒重測定	1回	重量	g	2回	重量	g	合計	重量	g
	粗玄米	粒数	粒	玄米	粒数	粒	くず米	粒数	粒
		重量	g		重量	g		重量	g
	再選別歩合								
	%								

段別重量測定	総量	2.20以上	2.10	2.00	1.95	1.90
	1回	g	g	g	g	g
	2回					
合計						
	1.85	1.80	1.75	1.70	1.60	底
	g	g	g	g	g	g

調査箇所の略図	標本単位区内	生育、登熟の特徴
全けい数 n = けい	水稻作付筆数	
間隔 $\frac{1}{3}n =$ けい	筆	
ランダム		
スタート a = 第 けい		

(記入注意)

- 1 合筆の上調製した場合は、合筆調製整理表から千粒重等を転記する。
- 2 総合選別機により調製した場合のくず米重は1.6mm目以下、粗玄米重は玄米重とくず米重の合計重量とする。

4 草丈・茎数・穂数・もみ数調査

調査所	調査株号	月 日調査		月 日調査						月 日調査						月 日調査			
		草丈	茎数	全 (茎)	穂数	無効穂数	有穂	効数	全もみ数	最高穂	下・2	全 (茎)	穂数	無効穂数	有穂	効数	全もみ数	最高穂	下・2
		cm	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
I	1																		
	2																		
	3																		
	4																		
	5																		
	6																		
	7																		
	8																		
	9																		
	10																		
	小計																		
II	1																		
	2																		
	3																		
	4																		
	5																		
	6																		
	7																		
	8																		
	9																		
	10																		
	小計																		
III	1																		
	2																		
	3																		
	4																		
	5																		
	6																		
	7																		
	8																		
	9																		
	10																		
	小計																		
合計	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)							
平均(M)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	$\frac{(11)+(12)}{20}$	(15)	(16)	(17)	(18)	$\frac{(11)+(12)}{20}$							
1㎡当たり(M)×(5) ただし(22)=(18)×(21)	(19)	(20)	(21)	(22)	100粒	(20)	(21)	(22)	100粒										

(記入注意)

- 1 穂数調査ですじまき(植)の場合は60cm間について調査する。
- 2 出穂開花期に当たり周辺4箇所調査を行う場合は、ほ場の4辺の中央において第4列目の10株ずつ、合計40株を調査する。ただし、次回に規定の箇所ですじまきについて調査を行う。
- 3 全もみ数調査は、筆内の穂数調査箇所ごとに3、4、3、計10株について行う。調査株は箇所ごとの平均有効穂数に近い株とし、調査方法は当該株有効穂の最高穂とかん長順位で下位より2番目の穂の全もみ数を調査する。

5 稔実歩合調査 (作況基準筆調査のみ)

出穂期後		日調査		(月 日 調査)					
(23) 株の有効穂数の合計			本	(24) 株の生穂重		g	(25) 株の生もみ重		g
うち上記の100g(又は50g)について調査	回数	比重選により浮いたもみのうち			比重選により沈んだもみのうち			全もみ数	
		不稔実もみ数	稔実もみ数	不稔実もみ数	稔実もみ数				
	1回	粒	粒	粒	粒	粒			
	2回								
	合計		(イ)	(ロ)	(ハ)	(A)			
(B) 沈下もみ数 (ロ)+(ハ)			粒		(C) 稔実もみ数 (イ)+(ハ)				粒
(26) 100g調査より 株当たり換算率(25)/100	(単位) 0.01		(31) 生穂重(24)/(23)	g	(35) 生穂重(24)*(27)	g			
(27) 株当たりより1㎡当たりへの換算率(21)/(23)	有効4けた	1穂当たり	(32) 全もみ数(28)/(23)	粒	(36) 生もみ重(25)*(27)	g			
(28) 全もみ数(A)×(26)	粒		(33) 沈下(29)/(23)もみ数	粒	(37) 全もみ数(28)*(27)(100粒)	:	:	:	
(29) 沈下もみ数(B)×(26)	粒		(34) 稔実(30)/(23)もみ数	粒	(38) 沈下(29)*(27)(100粒)	:	:	:	
(30) 稔実もみ数(C)×(26)	粒				(39) 稔実(30)*(27)(100粒)	:	:	:	
(40) 沈下もみ数歩合 (38)/(37)			%		(41) 稔実歩合 (39)/(37)			%	

(記入注意) 調査株数は地方農政局長、北海道農政事務所長及び沖縄総合事務局長が定める。

6 被害・共済減収調査

被害状況	被害の種類	発生時期	損傷項目	損傷程度	見積り被害歩合	平年比較			
						総合	多	並	少
						気象被害	多	並	少
						病害	多	並	少
						虫害	多	並	少

実測筆の10a当たり見積り収量	10a当たり未調製生もみ重 kg	回帰線(Y) 線	回帰線上の10a当たり収量 kg	図表から選んだ点(Y) %	図表から選んだ10a当たり収量 kg	選んだ理由	10a当たり筆平均見積り収量 kg
						晴天続き・雨天早刈り・適期刈り被害甚・中・軽その他()	

通し番号	標本筆の引受方式及び補償割割合	半相殺方式2割超過判定	10a当たり共済基準		10a当たり見積り		10a当たり見積り被害歩合											
			③ 収穫量	④ 平年収量	⑤ 収量	⑥ 基準収量	被害総合											
調査筆			kg	kg	kg	kg												
(1)	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
(2)	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
(3)	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
(4)	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
(5)	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
(6)	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
(7)	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:

← ← ← 入力方向

← ← ← 入力方向

--	--	--	--

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 畑作物収穫量調査調査票(団体用)

大豆(乾燥子実)用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスにまとめて記入してください。

記入例

11	9	8	6	5	3
----	---	---	---	---	---

つなげる すきまをあける

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例

/	→	/
---	---	---

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
 詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】



秘	統計法に基づく基幹統計
農林水産省	作物統計

--	--	--	--

年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 茶収穫量調査調査票(団体用)

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

- ★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスをまとめて記入してください。
- ★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	3
記入例	/	→	/	つなげる		すきまをあける

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
 調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
 詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

【1】 本年の生産の状況

本年の集荷(処理)状況について教えてください。該当するもの1つに必ず記入してください。

本年、集荷(処理)を行った	/
本年、集荷(処理)を行わなかった	/

【2】 来年以降の作付予定

来年以降の集荷(処理)予定について教えてください。該当するもの1つに必ず記入してください。

来年以降、集荷(処理)を行う予定である	/
来年以降、集荷(処理)を行う予定はない	/
今のところ未定	/

- ・本年集荷(処理)を行った方は、【3】(裏面)に進んでください。
- ・本年集荷(処理)を行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いします。
御協力ありがとうございました。

【3】貴工場で集荷している茶の生産量と摘採面積について
調査対象（農林水産省職員が予め記入しております。）

1 年間計	/
2 一番茶	/

- 1 年間計にマークのある方は、「年間計」及び「うち一番茶」両方に記入してください。
- 2 一番茶にマークのある方は、「うち一番茶」のみ記入してください。
- 3 一番茶の調査をお願いした方は、再度年間計の調査をお願いすることがあります。
 その際は両方にマークがつきます。

※「年間計」とは、冬春番茶、秋冬番茶及び一番茶から四番茶までの合計です。

記入上の注意

- 本年産の貴工場における生葉の処理量及びそれに対応する摘採面積を茶期ごとの合計及びうち一番茶について記入してください。
- 整枝・せん定をかねて刈り取った茶葉についても、荒茶に加工(刈り番茶)される場合は、集荷量、荒茶生産量及び摘採延べ面積に含めてください。
- 摘採延べ面積は、摘採した面積の合計を記入してください。

項目		年間計			うち一番茶			
		前年産	t		前年産	t		
生葉集荷 (処理)量	前年産							
	本年産							
荒茶生産量	前年産		kg			kg		
	本年産							
摘採実面積	前年産		ha	a		ha	a	
			(町)	(反)	(畝)		(町)	(反)
摘採延べ面積	前年産		ha	a		ha	a	
			(町)	(反)	(畝)		(町)	(反)
	前年産							
	本年産							

【4】作柄及び被害の状況について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について該当する項目の点線をなぞってください。

茶期別	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)									
	良	並	悪	少	並	多	凍霜害	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	その他
年間計	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
一番茶	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。



秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

・年産	都道府県	管理番号	市区町村	客体番号



政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産
果樹収穫量調査調査票(団体用)

〇〇用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 数字は、1マスに1つずつ、枠からはみ出さないように右づめで記入してください。

記入例				9	8	7	6	5	4	0
-----	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---

つなげる すきまをあける

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例		→	
-----	--	---	--

★ マスが足りない場合は、一番左のマスにまとめて記入してください。

記入例	11	2	8
-----	----	---	---

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。
調査票の記入及び提出は、インターネットでも可能です。
詳しくは同封の「オンライン調査システム操作ガイド」を御覧ください。

【問い合わせ先】

← ← ← 入力方向

--	--	--	--

秘	統計法に基づく基幹統計
農林水産省	作物統計

都道府県	管理番号	市区町村	旧市区町村	農業集落	調査区	経営体



統計法に基づく国の
統計調査です。調査
票情報の秘密の保護
に万全を期します。

政府統計

平成 年産 畑作物収穫量調査調査票(経営体用)

〇〇〇用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマ스에まとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。

【問い合わせ先】

【1】 本年の生産の状況について

本年の作付状況について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

本年、作付けを行った	/
本年、作付けを行わなかった	/

【2】 来年以降の作付予定について

来年以降の作付予定について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

来年以降、作付け予定がある	/
来年以降、作付け予定はない	/
今のところ未定	/
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	/

・本年作付けを行った方は、【3】(裏面)に進んでください。

・本年作付けを行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いします。
御協力ありがとうございました。

本年、作付けを行った方のみ記入してください。

【3】作付面積、出荷量及び自家用等の量について

本年産の作付面積、出荷量及び自家用等の量について記入してください。

記入上の注意

- 「作付面積」は、被害等で収穫できなかった面積(収穫量のなかった面積)も含めてください。また、1年間のうち、同じほ場に複数回作付けした場合(収穫後、同じ作物を新たに植えた場合)は、その延べ面積としてください。
- 「収穫量」は、「俵」、「袋」等で把握されている場合は、「kg」に換算して記入してください。(例:30kg紙袋で150袋出荷した場合→4,500kgと記入)
- 「出荷量」は、共同出荷、直売所への出荷、個人販売など、販売先を問わず、販売した全ての量を含めてください。また、販売する予定で保管されている量も「出荷量」に含めてください。
- 1a、1kgに満たない場合は四捨五入して整数単位で記入してください。(例:0.4a、0.4kg以下→「0」、0.5a、0.5kg以上→「1」と記入)
- 「自家用、無償の贈与、種子用等の量」は、ご家庭で消費されたもの、無償で他の方に差し上げたもの、翌年産の種子用にするものなどを指します。
- 「出荷先の割合」は、記入した「出荷量」について該当する出荷先に出荷した割合を%で記入してください。
「直売所・消費者へ直接販売」は、農協の直売所、庭先販売、宅配便、インターネット販売などを行います。
「その他」は、仲買業者、スーパー、外食産業などを含みます。

作物名	作付面積 (借入地を含む。)			収穫量					
	(町) ha	(反) a	(畝) a	出荷量 (販売した量及び販売 目的で保管している量)			自家用、 無償の贈与、 種子用等の量		
				t	kg		t	kg	

○ 記入した出荷量について該当する出荷先に出荷した割合を記入してください。

【4】出荷先の割合について

作物名	加工業者	直売所・ 消費者へ 直接販売	市場	農協以外の 集出荷団体	農協	その他	合計
	%	%	%	%	%	%	100%
	%	%	%	%	%	%	100%
	%	%	%	%	%	%	100%

【5】作柄及び被害の状況について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について該当する項目の点線をなぞってください。

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。

← ← ← 入力方向

--	--	--	--

秘	統計法に基づく基幹統計
農林水産省	作物統計

都道府県	管理番号	市区町村	旧市区町村	農業集落	調査区	経営体



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 飼料作物収穫量調査調査票(経営体用)

- 記入する前に、必ず「記入の仕方」を御覧ください。
- この調査票は、**秘密扱い**とし、統計以外の目的に使うことは**絶対ありません**ので、ありのままを記入してください。
- **黒色の鉛筆**又は**シャープペンシル**で記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスにまとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。

【問い合わせ先】

【1】 本年の生産の状況について

本年の作付け(栽培)状況について教えてください。該当するもの1つに**必ず**点線をなぞって選択してください。

本年、作付け(栽培)を行った	/
本年、作付け(栽培)を行わなかった	/

【2】 来年以降の作付(栽培)予定について

来年以降の作付(栽培)予定について教えてください。該当するもの1つに**必ず**点線をなぞって選択してください。

来年以降、作付け(栽培)予定がある	/
来年以降、作付け(栽培)予定はない	/
今のところ未定	/
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	/

・本年作付け(栽培)を行った方は、【3】(次のページ)に進んでください。

・本年作付け(栽培)を行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いします。
御協力ありがとうございました。

本年、作付けを行った方のみ記入してください。

【3】牧草について

本年産の栽培面積について記入してください。

記入上の注意

- 「栽培面積」には、牧草専用地、田や畑のほか農地以外での栽培など、牧草の栽培に利用した全ての面積を記入してください。
- 同じ土地で複数回牧草を収穫した場合であっても、「栽培面積」は、収穫した延べ面積ではなく、実際の面積（実面積）を記入してください。
- 牧草とは次のようなものをいいます。
 (いね科牧草)
 イタリアンライグラス、ハイブリッドライグラス、ペレニアルライグラス、トールフェスク、メーフェスク、オーチャードグラス、チモシー、レッドトップ、バヒアグラス、ダリスグラス、ローズグラス、リードカナリグラス、スーダングラス、テオシント、その他いね科牧草(ブロームグラス類、ホイトグラス類、ブルーグラス類等)
 (豆科牧草)
 アルファルファ、クローバー類、セสบانيا、その他豆科牧草(ベッチ類、ルーピン類、レスペデザ類等)
- えん麦、らい麦、大豆等の青刈り作物は牧草には含まれませんのでご注意ください。
- なお、青刈りとうもろこし、ソルゴーは、本調査票の【4】、【5】でそれぞれ記入をお願いします。

	(町)	(反)	(畝)
	ha		a
作付(栽培)面積			

どちらか分かる方で本年産の収穫量について記入してください。

1 収穫量が重量(生重量)で分かる場合	2 生重量で分からない場合																																						
<table border="1"> <tr> <td>収穫量計</td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>1番刈り</td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>2番刈り</td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>3番刈り</td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>4番刈り</td> <td></td> <td>t</td> <td>kg</td> </tr> </table>	収穫量計		t	kg	1番刈り		t	kg	2番刈り		t	kg	3番刈り		t	kg	4番刈り		t	kg	<p><ラッピング又は梱包を行っている場合></p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>個数(個)</td> <td>1個当たりの おおよその重量</td> </tr> <tr> <td>ラッピング個数</td> <td></td> <td>kg</td> </tr> <tr> <td>梱包個数</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p><固定サイロを用いている場合></p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td>m³</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td>%</td> </tr> </table> <p><簡易サイロを用いている場合></p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td>m³</td> </tr> </table>		個数(個)	1個当たりの おおよその重量	ラッピング個数		kg	梱包個数			サイロの容積		m ³	充足率		%	サイロの容積		m ³
収穫量計		t	kg																																				
1番刈り		t	kg																																				
2番刈り		t	kg																																				
3番刈り		t	kg																																				
4番刈り		t	kg																																				
	個数(個)	1個当たりの おおよその重量																																					
ラッピング個数		kg																																					
梱包個数																																							
サイロの容積		m ³																																					
充足率		%																																					
サイロの容積		m ³																																					
<p>記入上の注意</p> <p>○ 刈取り時期ごとの収穫量を記入の上、「収穫量計」の欄に合計を記入してください。(刈取り時期ごとに分からない場合は、「収穫量計」のみに記入してください。)</p>																																							
<p>記入上の注意</p> <p>○ ラッピングマシンを用いている場合は、「ラッピング個数」欄にラッピング個数及び1個当たりの重量を記入してください。 また、【4】青刈りとうもろこし及び【5】ソルゴーも同様に記入してください。</p> <p>○ 乾燥後、梱包を行っている場合は、「梱包個数」欄に梱包個数及び1個当たりの重量を記入してください。</p> <p>○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で固められたものをいいます。 なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。</p> <p>○ 簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。</p>																																							

【4】青刈りとうもろこしについて

本年産の作付面積について記入してください。

	(町)	(反)	(畝)
	ha		a
作付面積			

どちらか分かる方で本年産の収穫量について記入してください。

<p>1 収穫量が重量(生重量)で分かる場合</p> <table border="1"> <tr> <td>収穫量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td>kg</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; display: inline-block;">記入上の注意</p></div> <p>○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で固められたものをいいます。なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。</p> <p>○ 簡易サイロとは、スタックサイロ、バキュームサイロ、バッグサイロなど固定式以外のものをいいます。また、L字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含めてください。なお、簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。</p>	収穫量				t			kg	<p>2 生重量で分からない場合</p> <p style="text-align: center;"><固定サイロを用いている場合></p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td></td> <td>%</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><簡易サイロを用いている場合></p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><ラッピングを行っている場合></p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">個数(個)</td> <td style="text-align: center;">1個当たりの おおよその重量</td> </tr> <tr> <td>ラッピング個数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>kg</td> </tr> </table>	サイロの容積				m ³	充足率			%		サイロの容積				m ³		個数(個)	1個当たりの おおよその重量	ラッピング個数					kg
収穫量				t			kg																										
サイロの容積				m ³																													
充足率			%																														
サイロの容積				m ³																													
	個数(個)	1個当たりの おおよその重量																															
ラッピング個数																																	
		kg																															

【5】ソルゴー

本年産の作付面積について記入してください。

	(町)	(反)	(畝)
	ha		a
作付面積			

どちらか分かる方で本年産の収穫量について記入してください。

<p>1 収穫量が重量(生重量)で分かる場合</p> <table border="1"> <tr> <td>収穫量</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>t</td> <td></td> <td></td> <td>kg</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; display: inline-block;">記入上の注意</p></div> <p>○ 固定サイロとは、塔型サイロ(タワーサイロ)、バンカーサイロなど四方を構築物で固められたものをいいます。なお、「充足率」は、固定サイロの容積に対する本年の利用割合を記入してください。</p> <p>○ 簡易サイロとは、スタックサイロ、バキュームサイロ、バッグサイロなど固定式以外のものをいいます。また、L字型バンカーサイロなど固定式でないものは簡易サイロに含めてください。なお、簡易サイロを利用した場合は、使用した全てのサイロの容積の合計を記入してください。</p>	収穫量				t			kg	<p>2 生重量で分からない場合</p> <p style="text-align: center;"><固定サイロを用いている場合></p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> </tr> <tr> <td>充足率</td> <td></td> <td></td> <td>%</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><簡易サイロを用いている場合></p> <table border="1"> <tr> <td>サイロの容積</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>m³</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><ラッピングを行っている場合></p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">個数(個)</td> <td style="text-align: center;">1個当たりの おおよその重量</td> </tr> <tr> <td>ラッピング個数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>kg</td> </tr> </table>	サイロの容積				m ³	充足率			%		サイロの容積				m ³		個数(個)	1個当たりの おおよその重量	ラッピング個数					kg
収穫量				t			kg																										
サイロの容積				m ³																													
充足率			%																														
サイロの容積				m ³																													
	個数(個)	1個当たりの おおよその重量																															
ラッピング個数																																	
		kg																															

引き続き次のページにお進みください。

【6】作柄及び被害の状況について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について該当する項目の点線をなぞってください。

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)										
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他	
牧草	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
青刈りとうもろこし	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
ソルゴー	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

都道府県	管理番号	市区町村	旧市区町村	農業集落	調査区	経営体



政府統計

統計法に基づく国の
統計調査です。調査
票情報の秘密の保護
に万全を期します。

平成 年産
畑作物収穫量調査調査票(経営体用)
なたね(子実用)用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

- ★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマ스에まとめて記入してください。
- ★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	3
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、月 日までに提出してください。

【問い合わせ先】

【1】 本年の生産の状況について

本年の作付状況について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

本年、作付けを行った	/
本年、作付けを行わなかった	/

【2】 来年以降の作付予定について

来年以降の作付予定について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

来年以降、作付け予定がある	/
来年以降、作付け予定はない	/
今のところ未定	/
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	/

・本年作付けを行った方は、【3】(裏面)に進んでください。

・本年作付けを行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いします。
御協力ありがとうございました。

本年、作付けを行った方のみ記入してください。

【3】作付面積、出荷量及び自家用等の量について

本年産の作付面積、出荷量及び自家用等の量について記入してください。

記入上の注意

- 「作付面積」は、被害等で収穫できなかった面積(収穫量のなかった面積)も含めてください。
また、1年間のうち、同じほ場に複数回作付けした場合(収穫後、同じ作物を新たに植えた場合)は、その延べ面積としてください。
- 「収穫量」は、「俵」、「袋」等で把握されている場合は、「kg」に換算して記入してください。
(例:30kg紙袋で150袋出荷した場合→4,500kgと記入)
- 「出荷量」は、共同出荷、直売所へのお荷、個人販売など、販売先を問わず、販売した全ての量を含めてください。また、販売する予定で保管されている量も「出荷量」に含めてください。
- 「自家用、無償の贈答用、種子用等の量」は、ご家庭で消費されたもの、無償で他の方に差し上げたもの、翌年産の種子用などを指します。
なお、製油業者にお荷し、なたね油を現物で受け取った場合は、なたねの子実に換算した重量を記入してください。
- 子実用(食用として搾油するもの)のみの量を記入してください。
工業用に搾油するもの、菜花や花菜などの野菜として収穫するもの、青刈りするもの、緑肥としてすき込むものなどはいずれも含めないでください。
- 1a、1kgに満たない場合は四捨五入して整数単位で記入してください。
(例:0.4a、0.4kg以下→「0」、0.5a、0.5kg以上→「1」と記入)
- 「出荷先の割合」は、記入した「出荷量」について該当する出荷先にお荷した割合を%で記入してください。
「直売所・消費者へ直接販売」は、農協の直売所、庭先販売、宅配便、インターネット販売などをいいます。
「その他」は、仲買業者、スーパー、外食産業などを含まれます。

作物名	作付面積 (借入地を含む。)			収穫量			
	(町) ha	(反) a	(畝) a	出荷量 (販売した量及び販売 目的で保管している量)		自家用、 無償の贈答用、 種子用等の量	
				t	kg	t	kg
なたね							

○ 記入した出荷量について該当する出荷先にお荷した割合を記入してください。

【4】出荷先の割合について

作物名	製油業者	直売所・ 消費者へ 直接販売	市場	農協以外の 集出荷団体	農協	その他	合計
なたね	%	%	%	%	%	%	100%

【5】作柄及び被害の状況について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について該当する項目の点線をなぞってください。

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他
なたね	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。

← ← ← 入力方向

--	--	--	--

秘	統計法に基づく基幹統計	都道府県	管理番号	市区町村	旧市区町村	農業集落	調査区	経営体	品目 コード
農林水産省	作物統計								



政府統計

統計法に基づく国の
統計調査です。調査
票情報の秘密の保護
に万全を期します。

平成 年産
果樹収穫量調査調査票(経営体用)
〇〇〇用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスをまとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。

【問い合わせ先】

【1】本年の生産の状況について

本年の作付状況について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

本年、作付けを行った	/
本年、作付けを行わなかった	/

【2】来年以降の栽培予定について

来年以降の作付予定について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

来年以降、作付け予定がある	/
来年以降、作付け予定はない	/
今のところ未定	/
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	/

- ・本年、栽培を行った方は、【3】(裏面)に進んでください。
- ・本年、栽培を行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いします。
御協力ありがとうございました。

本年、栽培を行った方のみ記入してください。

【3】結果樹面積、出荷量及び自家用等の量について

本年産の結果樹面積、出荷量及び自家用等の量について記入してください。

記入上の注意

- 「結果樹面積」は、収穫をするために果実をならせた栽培面積をいいます。
- パインアップルの「収穫面積」は実際に収穫した栽培面積をいいます。
- 「出荷量」は、「箱」、「袋」、「t」等で把握されている場合は、「kg」に換算して記入してください。
(例: 10kg箱で150箱出荷した場合→1,500kgと記入)
- 「出荷量」は、共同出荷、農協や市場へ出荷したものや、消費者に直接販売したものなど、販売した全ての量を含めてください。
- 「自家用、無償の贈与の量」は、ご家庭で消費されたもの、無償で他の方に差し上げたものなどを指します。
- 干し柿などの加工品として出荷した場合は、加工前の生重量に換算して記入してください。
- ももはネクタリンを含み、すももはブルーンを含みます。
- 1a、1kgに満たない場合は四捨五入して整数単位で記入してください。
(例: 0.4a、0.4kg以下→「0」、0.5a、0.5kg以上→「1」と記入)
- 「出荷先の割合」は、記入した「出荷量」について該当する出荷先に出荷した割合を%で記入してください。
「直売所・消費者へ直接販売」は、農協の直売所、庭先販売、宅配便、インターネット販売などをいいます。
「その他」は、仲買業者、スーパー、外食産業などを含みます。

作物名	結果樹面積 (パインアップルは 収穫面積) (町)(反)(畝) ha a		収穫量			
			出荷量 (販売した量及び販売 目的で保管している量) t kg		自家用、 無償の贈与の量 t kg	

○ 記入した出荷量について該当する出荷先に出荷した割合を記入してください。

【4】出荷先の割合について

作物名	加工業者	直売所・ 消費者へ 直接販売	市場	農協以外の 集出荷団体	農協	その他	合計
							100%

【5】作柄及び被害の状況について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について該当する項目の点線をなぞってください。

作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。

← ← ← 入力方向

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

都道府県	管理番号	市区町村	旧市区町村	農業集落	調査区	経営体



統計法に基づく国の
統計調査です。調査
票情報の秘密の保護
に万全を期します。

平成 年産
野菜収穫量調査調査票(経営体用)
春植えばれいしょ用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください。

★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマ스에まとめて記入してください。

★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	つなげる	すきまをあける	

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。

【問い合わせ先】

【1】 本年の生産の状況について

本年の作付状況について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

本年、作付けを行った	/
本年、作付けを行わなかった	/

【2】 来年以降の作付予定について

来年以降の作付予定について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

来年以降、作付け予定がある	/
来年以降、作付け予定はない	/
今のところ未定	/
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	/

- ・ 本年作付けを行った方は、【3】(裏面)に進んでください。
- ・ 本年作付けを行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いします。御協力ありがとうございました。

本年、作付けを行った方のみ記入してください。

【3】作付面積、出荷量及び自家用等の量について

本年産の作付面積、出荷量及び自家用等の量について記入してください。

記入上の注意

- 「作付面積」は、被害等で収穫できなかった面積(収穫量のなかった面積)も含めてください。
また、1年間のうち、同じほ場に複数回作付けした場合(収穫後、同じ作物を新たに植えた場合)は、その延べ面積としてください。
- 「収穫量」は、「箱」、「袋」、「t」等で把握されている場合は、「kg」に換算して記入してください。
(例:10kg箱で150箱出荷した場合→1,500kgと記入)
- 「出荷量」は、農協や市場へ出荷したものや、消費者に直接販売したものなど、販売した全ての量を含めてください。また、販売する予定で保管されている量も「出荷量」に含めてください。
なお、種子用のばれいしよは出荷量に含めないでください。
- 「自家用、無償の贈答用、種子用等の量」は、ご家庭で消費されたもの、無償で他の方に差し上げたもの、翌年産の種子用にするものなどを指します。
- 北海道は、9月～10月に主に収穫、出荷したものについて記入してください。
なお、9月以前に出荷した量、又は10月以降に出荷が予定されている場合はその量も出荷量に含めてください。
都府県は、4月～8月に主に収穫、出荷したものについて記入してください。
- 1a、1kgに満たない場合は四捨五入して整数単位で記入してください。
(例:0.4a、0.4kg以下→「0」、0.5a、0.5kg以上→「1」と記入)
- 「出荷先の割合」は、記入した「出荷量」について該当する出荷先に出荷した割合を%で記入してください。
「直売所・消費者へ直接販売」は、農協の直売所、庭先販売、宅配便、インターネット販売などをいいます。
「その他」は、仲買業者、スーパー、外食産業などを含みます。

作物名	作付面積 (町)(反)(畝) ha a		収穫量			
			出荷量 (販売した量及び販売 目的で保管している量) t kg		自家用、 無償の贈与、 種子用等の量 t kg	
春植えばれいしよ						

○ 記入した出荷量について該当する出荷先に出荷した割合を記入してください。

【4】出荷先の割合について

作物名	加工業者	直売所・ 消費者へ 直接販売	市場	農協以外の 集出荷団体	農協	その他	合計
春植えばれいしよ							100%

【5】作柄及び被害の状況について

前年産に比べて本年産の作柄の良否、被害の多少、主な被害の要因について該当する項目の点線をなぞってください。

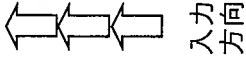
作物名	作柄の良否			被害の多少			主な被害の要因(複数回答可)									
	良	並	悪	少	並	多	高温	低温	日照不足	多雨	少雨	台風	病害	虫害	鳥獣害	その他
春植えばれいしよ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。



統計法に基づく国の
統計調査です。調査
票情報の秘密の保護
に万全を期します。

都道府県	管理番号	市区町村	旧市区町村	農業集落	調査区	経営体



平成 年 産
野菜収穫量調査調査票(経営体用)

〇〇〇用

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください

- ★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は一番左のマスのまともに入れて記入してください。
- ★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	/	/	/	/	/

↑ つなげる すきまをあげる

記入していただいた調査票は、 月 日までに提出してください。

【問い合わせ先】

【1】 本年の生産の状況について

本年の作付状況について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

本年、作付けを行った	/
本年、作付けを行わなかった	/

【2】 来年以降の作付予定について

来年以降の作付予定について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

来年以降、作付け予定がある	/
来年以降、作付け予定はない	/
今のところ未定	/
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	/

- 【1】 本年の生産状況の確認で
- ・ 本年作付けを行った方は、【3】(次のページ)に進んでください。
 - ・ 本年作付けを行わなかった方は、ここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いいたします。
- 御協力ありがとうございました。



入力
方向

秘 農林水産省	統計法に基づく基幹統計
	作物統計



統計法に基づく国の
統計調査です。調査
情報の秘密の保護
に万全を期します。

政府統計

都道府県	管理番号	市区町村	旧市区町村	農業集落	調査区	経営体

平成 年産 花き出荷量調査調査票(経営体用)

- この調査票は、秘密扱いとし、統計以外の目的に使うことは絶対ありませんので、ありのままを記入してください。
- 黒色の鉛筆又はシャープペンシルで記入し、間違えた場合は、消しゴムできれいに消してください。
- 調査及び調査票の記入に当たって、不明な点等がありましたら、下記の「問い合わせ先」にお問い合わせください

- ★ 右づめで記入し、マスが足りない場合は、一番左のマスをまとめて記入してください。
- ★ 該当する場合は、記入例のように点線をなぞってください。

記入例	11	9	8	6	5	8
記入例	/	→	/	/	/	/

つなげる
すきまをあげる

記入していただいた調査票は、月 日までに提出してください。

【問い合わせ先】

【1】本年の生産の状況について

本年の作付状況について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

本年、作付けを行った	/
本年、作付けを行わなかった	/

【2】来年以降の作付予定について

来年以降の作付予定について教えてください。該当するもの1つに必ず点線をなぞって選択してください。

来年以降、作付け予定がある	/
来年以降、作付け予定はない	/
今のところ未定	/
農業をやめたため、農作物を作付け(栽培)する予定はない	/

- 【1】本年の生産状況の確認で、本年作付けを行った方は、【3】(次のページ)に進んでください。
- 本年作付けを行わなかった方はここで終了となりますので、調査票を提出していただくようお願いいたします。
御協力ありがとうございました。

本年、作付けを行った方のみ記入してください。

【3】作付(収穫)面積及び出荷量について

本年産の作付(収穫)面積及び出荷量について該当する品目ごとに記入してください。

記入上の注意

- 本年の1月から12月までに出荷したものについて、記入してください。
- 「作付(収穫)面積」は、被葦等で出荷できなかった面積も含めてください。
- また、1年間のうち、同じほ場に2回以上作付けた場合や2段以上のベツド(棚)で栽培した場合、その延べ面積としてください。
- 「出荷量」は、共同出荷、農協や市場へ出荷したものや、消費者に直接販売したものなど、販売した全ての量を含めてください。
- 1a(歩、m²)、1,000本(鉢、球)に満たない場合は四捨五入して整数単位で記入してください。
- (例:0.4a、400本→「0」、0.5a、500本→「1」)
- 「出荷先の割合」は、記入した「出荷量」について該当する出荷先に出荷した割合を%で記入してください。
- 「直売所・消費者へ直接販売」は、農協の直売所、庭先販売、宅配便、インターネット販売などをいいます。
- 「その他」は、仲買業者、スーパー、外食産業などを含みます。
- 「主な被害の要因」は被害があった場合に記入してください。
- (例:「高温」、「多雨」、「台風」、「病害」、「虫害」等)

品目名	本年(平成 年1月~12月)		出荷先の割合(%)						a(畝)	被害の多少			主な被害の要因	
	作付(収穫)面積	出荷量	加工業者	直売所・消費者へ直接販売	市場	農協以外の集出団体	農協	その他		合計	少	並		多
									歩(坪)				歩(坪)	
切り花類計										100%	///	///	///	
										100%	///	///	///	
										100%	///	///	///	
										100%	///	///	///	
										100%	///	///	///	
										100%	///	///	///	
										100%	///	///	///	
										100%	///	///	///	

【3】作付(収穫)面積及び出荷量について (続き)

品目名	本年(平成 年1月~12月)		出荷先の割合 (%)							被害の多少			主な被害の要因
	作付(収穫)面積	出荷量	加工業者	直売所・消費者へ直接販売	市場	農協以外の集出荷団体	農協	その他	合計	少	並	多	
球根類計									100%	///	///	///	
鉢物類計									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
花壇用苗もの類計									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	
									100%	///	///	///	

調査はここで終了です。御協力ありがとうございました。



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年

被害調査票

調査筆の種類		標 調 応			作物名	
筆の所在地	設計単位	作況階層	標本単位区	筆の通し番号	都道府県名	
					調査者氏名	
	市町村	大字(町)	小字	地番		
					調査期日	月 日

調査箇所	被害種類										
	被害発生時の生育段階										
	損傷調査項目										
	I	1									
		2									
		3									
		4									
		5									
	II	6									
		7									
		8									
		9									
		10									
	III	11									
		12									
13											
14											
15											
合計											
平均											
損傷歩合											
見積り(実測)被害歩合	調査項目別										
	被害種類別										
	計										
筆平均見積り被害歩合	被害種類別										
	被害総合										
適用した尺度(番号)											

注： 1 この調査票は、標本筆(単位区)の損傷見積り(実測)調査の調査票及び被害調査筆・被害応急調査の損傷調査票として使用する。
 2 被害損傷実測調査の損傷調査項目は、被害の種類、被害発生時期などから地方農政局長、北海道農政事務所長、沖縄総合事務局長及び沖縄総合事務局の農林水産センターの長が定める。
 3 損傷歩合欄は、損傷項目が損傷歩合を現さないような項目の場合(例えば被害穂数、被害粒数等)は、「平均」についての損傷歩合(例えば被害穂数歩合、被害粒数歩合)を記入する。
 4 見積り(実測)被害歩合は、損傷見積り(実測)調査結果に減収推定尺度を適用して決める。
 5 見積り(実測)被害歩合の計は、見積り(実測)を行った被害種類を合計した被害歩合とし、筆平均見積り被害歩合の被害総合は、全ての被害を総合して見積った被害歩合とする。
 6 調査筆の種類欄の「標」は被害標本筆、「調」は被害調査筆、「応」は被害応急調査筆を示し、該当に○印を付す。
 7 調査株数は、1箇所5株とする。

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

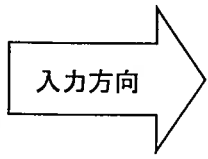
別記様式第25号

4411



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

平成 年産 共済減収調査
麦類減収標本調査票



記入見本 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

年産	作物名	都道府県	管理番号	市町村	標本単位区	筆の通し番	調査者氏名
2 0	:	:	:	:	:	:	

筆の所在地	市町村	大字	小字	地番	氏名
耕作者住所	市町村				電話 ()

1 観察・聞き取り事項

品 種	栽 培 様 式			は種期	出穂期	農家の刈取り期
	ばらまき	すじまき ・ 広幅まき	株(点)まき			
	1	2	3	月 日	月 日	月 日

2 栽植密度・単位当たり換算率

畝幅・株間測定						調査箇所の略図		
調査箇所	すじまき・広幅まき・株(点)まき栽培						全けい数 n = けい	間隔 1/3n = けい
	(1) 畝幅 〔6 けい間 の長さ〕	(2) 株間 〔11 株間 の長さ〕	(3) 平均畝幅 (1)/5	(4) 平均株間 (2)/10	(5) 1㎡当たり けい長(株数)	刈取り 株数		
I	cm	cm	0.1cm	0.1cm	cm (0.1株)	株		
II								
III								
合計	(6)	(8)				(10)		
平均	(7) (6)/15	(9) (8)/30						
(11) 栽培方法別 10a 当たり 換算率	ばらまき		すじまき・広幅まき		株(点)まき			
	333.3又は250		333.3		$\frac{10,000,000}{(7) \times (9) \times (10)}$ (単位: 0.1)			
作付面積 利用度による修正	畝落とし栽培の明らかでない場合				(12) 標準畝幅 cm		(15) 修正率(単位: 0.001) (7)/(12)	
	ばらまき栽培で排水溝がある場合				(13) ほ場の本地面積 a	(14) 排水溝の面積 a	(15) 修正率(単位: 0.001) $\frac{(13)-(14)}{(13)}$	

3 調査筆の10a当たり見積り収量

刈取り日	(16) 生穂重の重量	(17) 10a当たり生穂重 (16)×(11)	(18) 修正10a当たり生穂重 (17)×(15)			
月 日	g	kg	kg			
10a当たり生穂重 (17)又は(18)	回歸線 (Y)	回歸線上の 10a当たり収量	図表から 選んだ点	図表から選んだ 10a当たり収量	選んだ理由	10a当たり筆 平均見積り収量
kg	線	kg	(Y) % + -	kg	晴天続き・雨天 早刈り・適期刈り 被害 甚・中・軽 その他 ()	kg

通し番号	標本筆の 字地番	引受 方式 及び 補償 割合 ①	10a当たり 共済基準 収 穫 量 ② kg	10a当たり 平均収量 ③ kg	10a当たり 見積り収量 ④ kg	備 考
調 査 筆	(1)	・	・	・	・	
	(2)	・	・	・	・	
	(3)	・	・	・	・	
	(4)	・	・	・	・	
	(5)	・	・	・	・	

(記入注意)

1 刈取りの調査対象範囲及び (5) 算出式は次のとおりである。

栽培様式	ばらまき	すじまき・広幅まき	点(株)まき
刈取り	1 m ² (円形刈り)	1 m ² 当たり けい長	1 m ² 当たり 株数
算出式		10,000 / (3)	$\frac{10,000}{(3) \times (4)}$

2 (11)のばらまきで333.3は1 m²3箇所刈り、250は1 m²4箇所刈りの場合である。

3 (18)の修正10a当たり生穂重は(15)の作付面積利用度による修正率を乗じて算出する。

4441

← ← ← 入力方向



統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

政府統計

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

記入見本 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

平成 年産共済減収調査
ばれいしょ減収標本調査票

調査者氏名	
耕作者住所	
耕作者氏名	

年産西暦	作物	都道府県	振興局	管理番号	市町村	農家番号	用途区分	調査方法
: : : : :	: : : : :	: : : : :	: : : : :	: : : : :	: : : : :	: : : : :	① ② ③ ④	① ②

作物(番号)	春植えばれいしょ(330)	秋植えばれいしょ(340)	調査方法(番号)	1筆実測(1)	2筆実測(2)
用途区分(番号)	でん粉加工用(1)	食品加工用(2)	種子用(3)	でん粉加工用、食品加工用、種子用以外(4)	

1 調査筆単位の記入事項		農家の掘取り予定日		月 日		農家の掘取り予定日		月 日	
		第 1 筆				第 2 筆			
筆の所在地									
調査月日	月 日				月 日				
作付面積	田畑別(田・畑) a				田畑別(田・畑) a				
品種(番号)	: : : : :				: : : : :				
収穫期	月 日ごろ				月 日ごろ				
栽培様式	平 畝		高 畝		平 畝		高 畝		

共済引受面積	10a当たり共済基準収穫量	発芽不能又は移植不能	共済引受面積	10a当たり共済基準収穫量	発芽不能又は移植不能
: : : : : a	: : : : : kg	① ②	: : : : : a	: : : : : kg	① ②

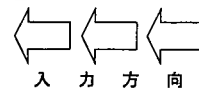
掘取り箇所	全けい数 n =	けい	全けい数 n =	けい		
	ランダムスタート a =	第 けい	ランダムスタート a =	第 けい		
	間 隔 =	けい	間 隔 =	けい		
	畝幅(6けい間)	株間(11株間)	畝幅(6けい間)	株間(11株間)		
第1箇所	cm	cm	cm	cm		
第2箇所	cm	cm	cm	cm		
第3箇所	cm	cm	cm	cm		
合計	(1) cm	(2) cm	(3) cm	(4) cm		
平均	(1) (2) (3) (4) 15 30 15 30	(5) cm	(6) cm	(7) cm	(8) cm	
(9) 10a当たり換算率	$\frac{333,333}{(5) \times (6)}$	$\frac{666,667}{(5) \times (6)}$	(有効3けた) $\frac{333,333}{(7) \times (8)}$	$\frac{666,667}{(7) \times (8)}$	(有効3けた)	
(10) 掘取りいも重(3箇所合計)(単位0.01)	上いも	くずいも	被害いも	上いも	くずいも	被害いも
	kg	kg	kg	kg	kg	kg
10a当たり重量 (9)×(10)	: : : : : kg	: : : : : kg	: : : : : kg	: : : : : kg	: : : : : kg	: : : : : kg
被害の状況等						

2 標本農家単位の記入事項		共済引受面積		共済基準収穫量		共済引受筆数		調査筆のうち植物防疫法等不合格筆数	
: : : : :	a	: : : : :	: : : : :	: : : : :	kg	: : : : :	筆	: : : : :	筆

秘
農林水産省

統計法に基づく基幹統計
作物統計

平成 年産共済減収調査
果樹共済基準筆調査
果樹・収穫共済基準筆調査票



4 4 3 1

記入見本 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

種類名	種類等名	組合等名	共済番号	組合員等の所在地	市 町 村	番地	組合員等氏名	農政局	都道府県名	
年産	都道府県	管理コード	種類名コード	種類等名コード	調査園番号	引受方式	継続	設置市町村コード	樹齢階層	調査月日
調査者氏名										

1 農家の栽培状況と見込収量（基準筆となった園地について聞き取る）

品 種 名 コード	樹 齢 年	引 受 面 積 (1) a		1 筆 当 た り 見 込 収 量 (2) kg			前 年 収 量 (3) kg	対前年比 (2)/(3)*100 %	共 済 基 準 収 量 (4) kg
		本 数	本	kg	kg	kg			
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
種類等合計（平均）		:	:	:	:	:	:	:	:

2 調査園地の概況

コード	地形	コード	傾斜方向	コード	仕立方式	コード	灌水施設	収穫期
:	:	:	:	:	:	:	:	月 : 日 ~ 月 : 日

3 調査園地の面積及び本数〔上段は全園地、下段は園地の一部を実施した場合の値を記入する。〕

栽培面積 (5) a	結果樹面積 (6) a	植栽本数 (7) 本	結果樹本数 (8) 本	結果区画数 (9) 区画	実測樹数 (10)本 (区画)	観察樹数 (11)本 (区画)	調査樹数計 (12)=(10)+(11)
:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:

4 果実数

調査樹(区画)番号 (うち実測樹に○印)	採用した調査方法	コード	計
観察調査による果実数		(A)	:
実測調査による果実数		(B)	:
		(C)	:

注：「観察調査による果実数」は観察によって見積もった基準筆の調査樹ごと観察果実数を記入し、その合計を「計の(A)」の欄に記入する。

「計の(B)」の欄は基準筆の調査樹のうち、実測を行う樹体の観察果実数を記入する。「計の(C)」の欄は、実測した樹体の実測果実数を記入する。

平均1樹(区画)当たり観察果実数 (13)=(A)/(12)	粒 実測樹の平均1樹(区画)当たり観察果実数 (14)=(B)/(10)	粒 実測樹の平均1樹(区画)当たり実測果実数 (15)=(C)/(10)	粒 修正率 (小数点以下3位) (16)=(15)/(14)	粒 平均1樹(区画)当たり果実数 (17)=(13)*(16)
:	:	:	:	:

5 果実重

調査果実重合計 (18)(E)から転記	調査果実数 (19)(D)から転記	平均	修正率 (小数点以下3位)	決定果実重 (22)=(20)*(21)
:	:	:	:	:

6 収量の測定

実査結果	1 樹 (区画) 当 たり 果 実 数 (17)欄から転記		果 実 重 (22)欄から転記		1 筆 当 たり 本年収量 (kg) (26)=(25)*(6)または(9)	前年収量 (3)から転記 (kg) (29)	共済基準収量 (4)から転記 (kg) (32)	対 比 (%)	
	対 前 年 比 (35)=(27)/(30)*100		共 済 基 準 収 量 対 (36)=(27)/(33)*100						
園内観察	:	:	:	:	(27)=(26)/(1)*10	(30)=(29)/(1)*10	(33)=(32)/(1)*10		
決 定	(23)	(24)	(25)=(23)*(24)/1000	(1) 基準	(28)=(26)/(6)*10	(31)=(29)/(6)*10	(34)=(32)/(6)*10	(6) 基準	

注：(A)、(B)、(C)、(D)、(E)は、「果樹・収穫共済基準筆調査果実数及び果実重算出補助表」を使用した場合には算出表から転記する。

7 特記事項〔被害状況（特に被害名、被害程度）その他を記入する。〕



調査園番号	種類	種類等	樹齢階層	都道府県名	市町村名	調査月日	月	日	調査者名
-------	----	-----	------	-------	------	------	---	---	------

採用した調査方法名

1 果実数

調査樹(区画)番号 (うち実測樹に○印)	種類	種類等	樹齢階層	都道府県名	市町村名	調査月日	月	日	調査者名
観察による果実数									
着果枝別の数	第1主枝	(本)							
	第2主枝								
	第3主枝								
	第4主枝								
	計(1)								
実測樹	第1主枝	(粒)							
	第2主枝								
	第3主枝								
	第4主枝								
	計								
平均(2)									
1樹(区画)の果実数 (3)=(1)*(2)									(C)

- 注：1 果実数(重)は、ぶどうは果房数(重)に読み替える。
 2 前年度からの継続筆については、「調査園番号」に○印をつける。
 3 調査樹(区画)に番号を付した後、さらに実測樹に○印をつける。
 4 「観察調査による果実数」欄は、観察調査によって見積もった基準簿の調査樹ごとの果実数を記入し、その合計を「計の(A)」の欄に記入する。
 5 「計の(B)」の欄は、基準簿の調査樹のうち、実測を行う樹体の観察果実数を記入する。
 6 (A)、(B)、(C)、(D)、(E)欄は、調査票の該当欄に転記する。

2 果実重

果実重	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
調査果実数計																					
粒計																					
(E)																					



秘
農林水産省
統計法に基づく基幹統計
作物統計

平成 年産 共済減収調査
果樹共済基準筆調査
果樹・暴風雨共済基準筆調査票

記入見本 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

種類名	種類等名	暴風雨の名称	農政局		都道府県名	
組合等名	共済番号	組合員等の所在地	市郡	町村	番地	組合員等氏名
年産	都道府県	管理コード	種類名コード	種類等名コード	調査園番号	引受方式
:	:	:	:	:	:	継続
			設置市町村コード	樹齢階層	襲来月日	調査月日
			:	:	:	回数
			調査者氏名			

1 農家の栽培状況と共済基準収量等

品 種 名 コード	樹 齢 年	引 受 面 積 (1) a	本 数 本	1 筆 当 当 た り			前 年 取 量 (5) kg
				共 済 決 定 着 果 数 (2)	共 済 平 均 果 実 重 (3) g	共 済 基 準 収 量 (4)=(2)*(3) kg	
:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:
種類等合計(平均)				(L)	(M)	(N)	(O)

2 調査園地の概況

コード	地 形	コード	傾 斜 方 向	コード	仕 立 方 式	コード	灌 水 施 設	調 査 時 の 生 育 段 階
:	:	:	:	:	:	:	:	:

3 調査園地の面積及び本数〔上段は、全園地、下段は園地の一部を実測した場合の値を記入する。〕

栽 培 面 積 (6) a	結 果 樹 面 積 (7) a	植 栽 本 数 (8) 本	結 果 樹 本 数 (9) 本	結 果 区 画 数 (10) 区画	実 測 樹 数 (11) 本 (区画)	観 察 樹 数 (12) 本 (区画)	調 査 樹 数 計 (13)=(11)+(12)
:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:

4 着果数・落果数

(1) 実測樹の平均1樹(区画)当たり着果数・落果数

	果 実 数 (14) 粒	実 測 樹 数 (11)より転記	平 均 (14)/(15)
着 果 数	:	(15) 本	(16) 粒
うち被害果数	:		(17)
落 果 数	:		(18)
うち無被害果数	:		(19)
総 果 実 数	:		(20)=(16)+(18)

(2) 着果被害果数割合

$$(21) = (17) / (16) * 100$$

(3) 落果被害果数割合

$$(22) = ((18) - (19)) / (18) * 100$$

- 注1 共済決定着果数(平均果実重)は、おどろは共済決定着果数(平均果房重)に読み替える。
2 (14)は、「果樹・暴風雨共済基準筆調査果実数算出補助表」の(G)~(K)を転記する。
3 (23)は、「果樹・暴風雨共済基準筆調査果実数算出補助表」の(A)、(C)、(E)を転記する。
4 (26)は、「果樹・暴風雨共済基準筆調査果実数算出補助表」の(B)、(D)、(F)を転記する。

(4) 平均1樹(区画)当たり着果数・落果数の修正

	観 察				実 測				平均1樹当たりの果実数の修正	
	調査樹の観察合計果実数 (23) 粒	調査樹数 (24) (13)から転記	平均1樹当たり果実数 (25)=(23)/(24) 粒	うち実測樹の観察合計果実数 (26) 粒	実測樹数 (11)から転記	平均1樹当たり果実数 (28)=(26)/(27) 粒	平均1樹当たり果実数 (16)、(18)から転記	修正率 (小数点以下3位)	平均1樹当たり果実数 (31)または (32)=(25)*(30)	
着 果 数	:		:	:		:	:	:	(30)=(29)/(28)	(31) 粒
落 果 数	:		:	:		:	:	:		(32)
総 果 実 数	:		:	:		:	:	:		(33)=(31)+(32)

5 減収量及び収穫量とする果実数

1 樹 当 たり	実 測 結 果	園 内 観 察	決 定	減 収 量 と する 果 実 数	収 穫 量 と する 果 実 数
	粒	粒	粒	粒	粒
着 果 数	((31)から転記)	:	(34)	(37)=(34)*((21)/100)	(40)=(34)-(37)
落 果 数	((32)から転記)	:	(35)	(38)=(35)*((22)/100)	(41)=(35)-(38)
総 果 実 数	((33)から転記)	:	(36)=(34)+(35)	(39)=(37)+(38)	(42)=(40)+(41)

6 暴風雨以外の災害による減収果実数〔(44)欄の記入は、(L)>(43)の場合のみ記入する。〕

1 筆 当 たり	第 1 回 目 の 暴 風 雨 の 場 合		第 2 回 目 以 降 の 暴 風 雨 の 場 合	
	暴 風 雨 災 害 前 の 果 実 数 (43)=(36)*(9)(または(10)) 粒	減 収 果 実 数 (44)=(L)-(43) 粒	前 回 調 査 時 の 着 果 収 穫 量 と する 果 実 数 (43) (前回の調査票の((40)*(9)(または(10))を記入) 粒	減 収 果 実 数 (44)=[(43)-((36)*(9)(または(10)))] 粒
	:	:	:	:

7 減収量及び収量の測定

1 筆 当 た り	減収量とする 果実数	(45)=(39)×(9) (または (10))	減収量	見込収量	暴風雨以外の 災害による 減収量	前年収量	共済基準 収穫量	対前年比	減収率
	収穫量とする 果実数	(46)=(42)×(9) (または (10))							
	1筆当たり		(49)=(45)×100/1,000	(52)=(46)×100/1,000	(55)=(47)×100/1,000	(58) (0)から転記	(61) (0)から転記	(64)=(53)/(59)×100 %	(65)=(50)/(52)×100 %
	10a a 当 た り	(47) ((44)から転記)	(50)=(49)/(1)×10	(53)=(52)/(1)×10	(56)=(55)/(1)×10	(59)=(58)/(1)×10	(62)=(61)/(1)×10		
	計	(48)=(45)+(46)+(47) =(L)	(51)=(49)/(7)×10	(54)=(52)/(7)×10	(57)=(55)/(7)×10	(60)=(58)/(7)×10	(63)=(61)/(7)×10		

8 特記事項 [被害状況等を記入する]



政府統計

調査票番号	種類	種類等	市町村名	調査月日 (回数)	月	日	調査者名
暴風雨の名称	種類	種別等	都道府県名	調査月日 (回数)	月	日	調査者名

果実数
採用した調査方法名

調査樹(区画)番号 (うち実測樹に○印)	種類	種類等	市町村名	調査月日 (回数)	月	日	調査者名
観果 に実 よ る 数	1 樹の 着果数 面積内落果 数						
	計						
	第1主枝	(木)					
	第2主枝						
	第3主枝						
	第4主枝						
	計(1)						
	第1主枝	(樹)					
	第2主枝						
	第3主枝						
第4主枝							
計							
平均(2)							
1 樹(区画)の着果数 (3) = (1) + (2)							(G)
うち被害果数							(H)
1 樹(区画)の樹冠 面積内落果数 (4)							(I)
うち無被害果数							(J)
総果実数 (5) = (3) + (4)							(K)

- 注：1 着(落)果数は、ふどりは着(落)房数に読み替える。
 2 前年度からの継続簿については、「調査図番号」欄に○印をつける。
 3 調査樹に番号をつけた後、実測樹に○印をつける。
 4 「観察による果実数」欄は、観察ごとに観察調査によって見積もった着果数及び樹冠面積内落果数を記入し、それぞれの合計を「計の(A)及び(C)」欄に記入する。
 5 「計の(B)及び(D)」の欄は、調査樹のうち、実測を行う樹体の観察による着果数及び樹冠面積内落果数を記入する。
 6 「実測樹の1樹(区画)の着果数」の欄に実測樹ごとの着果数の記入が終了したら、その合計を「計の(G)」欄に記入する。
 7 「実測樹の1樹(区画)の樹冠面積内落果数」の欄に実測樹ごとの落果数の記入が終了したら、その合計を「計の(I)」欄に記入する。
 8 実測樹の着果数、落果数について「収穫量とする果実か否か」の判定を行い、その結果を「うち被害果数」欄、「うち無被害果数」欄に記入し、さらにその合計を「計の(H)、(J)」欄に記入する。
 9 (A)、(B)、(C)、(D)、(E)、(F)、(G)、(H)、(I)、(J)、(K)欄は、調査票の該当欄へ転記する。

作物統計調査の必要性等について

1 調査の目的・必要性

作物統計調査は、作物統計（統計法（平成19年法律第53号）第2条第4項に規定する基幹統計）を作成し、耕地及び作物の生産に関する実態を明らかにし、農業行政の基礎資料を整備することを目的として毎年実施している調査である。

調査結果は、国民生活の基礎である食料の安定供給の確保のための施策推進、農業経営の安定に係る対策の推進、食料自給率の算定等に利用されるなど、本調査のように我が国全体の耕地面積、主要作物別の作付面積、収穫量等の実態を詳細にみる統計は他にはない。

なお、具体的な利活用は以下のとおり。

- ① 食料・農業・農村基本計画における食糧自給率や生産努力目標の策定及び目標達成に向けた生産指導・達成状況検証に利用
- ② 経営所得安定対策における交付金単価の算定に利用
- ③ 農業災害補償制度における共済基準収量の算定に利用
- ④ 野菜生産出荷安定法（昭和41年法律第103号）及び「野菜生産出荷安定法施行規則」（昭和41年農林省令第36号）の規定に基づき、主要野菜の集団産地の指定、区域の変更、解除をする際の審査に利用
- ⑤ 果樹農業振興基本方針における目標栽培面積の策定及び目標達成に向けた生産指導・達成状況検証に利用 等

2 他調査との重複

- (1) 耕地面積を把握する調査で重複するものはない。
- (2) 作付面積及び収穫量（出荷量）に関する基幹統計調査は、本調査以外にないが、一般統計調査としては、特定作物統計調査（農林水産省実施、一般統計）、地域特産野菜生産状況調査（農林水産省実施、一般統計）、花き産業振興総合調査（農林水産省実施、一般統計）、特用林産物生産統計調査（農林水産省実施、一般統計）がある。しかし、これらは対象品目を相互に調整しており、重複なく整理している。

調査名	把握対象となる作物	調査周期	報告者
作物統計調査	水稲	毎年	・実測調査 ・農協等の関係団体 ・農林業経営体
	陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、なたね、飼料作物、てんさい、さとうきび、野菜（指定野菜、特定野菜）、茶、果樹、花き（鉢物の花木類を含む。）		
特定作物統計調査	豆類（小豆、いんげん、らっかせい）、こんにゃく、いも、い	毎年	・農協等の関係団体 ・農林業経営体
地域特産野菜生産状況調査	上記2調査以外の野菜で地域特産の野菜（うど、エシャレット、オクラ等）	2年周期	・農協
花き産業振興総合調査	花木類（鉢物を除く。）、芝、地被植物	毎年	・生産組合
特用林産物生産統計調査	きのこ類、山菜類（いずれも上記3調査の対象外） 木炭等、薬草等、竹材・桐材等	毎年	・生産者

- (3) 被害を把握する調査で重複するものはない。

3 行政記録情報の利活用

耕地面積に関する行政記録情報としては、地方税法（昭和25年法律第226号）第380条第1項の規定に基づく固定資産課税台帳（土地課税台帳、土地補充課税台帳、家屋課税台帳、家屋補充課税台帳及び償却資産課税台帳の総称）がある。

固定資産課税台帳は、地方税法第381条第1項（市町村長は、登記簿に登録されている土地について、固定資産税を課されることとなる者の住所、氏名、名称、価格などを登録しなければならない）に基づき、登記簿情報を基礎情報として整備されているものである。

また、登記が行われていない固定資産の変更については、市町村長等が選任する評価委員等が現地見回り、航空写真などにより確認（毎年少なくとも1回の実地調査（地方税法第408条））し、固定資産課税台帳を更新することとなっている。

この台帳上の地目については、田、畑、宅地、塩田、鉱泉地、池沼、山林、牧場、原野、その他の土地の各地目に区分されている。

一方、作物統計調査における耕地面積調査では、毎年全国の田畑別の耕地面積等について把握することを目的としているが、この把握については、耕作者（地権者）の意志によらず現況面積を把握するため、対地標本実測調査を実施し把握している。

過年次において両者の田及び畑面積について比較した結果、都道府県別に異なるが、いずれも課税台帳面積が過大となっている状況が大半であった。

このように目的、把握方法、調査結果が異なっていることから、固定資産課税台帳の結果を作物統計調査に代替することはできない。

なお、耕地面積に関する行政記録情報としては、固定資産課税台帳のほか、土地登記簿や農地基本台帳があるが、土地登記簿は固定資産課税台帳の基礎情報として活用されているものであり、農地基本台帳については、上記と同様に目的、把握方法等の違いから、作物統計調査に代替することはできない。

4 事業所母集団データベースを利用した重複排除等

本調査の対象となる農林業経営体のうち組織法人経営体についての重複排除については、毎年5月中旬までにデータベース照合を実施し、調査履歴については、重複排除の後、速やかに調査対象名簿を提出する。また、調査票の提出期限は、作物の種類及び生育状況によって異なるが、概ね翌年の6月上旬には到来することから、最終的な調査結果名簿については、当該翌年の概ね9月上旬までに提出することを予定している。

また、関係団体等については全数調査であることから、重複排除は行わないが、調査履歴として、毎年5月中旬までに調査対象名簿を提出する。調査結果名簿については、前段同様の理由から当該翌年の概ね9月上旬までに提出することを予定している。